

令和2年度

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）

「目指せ！持続可能な社会の担い手を育む教育の実践」

研究開発実施報告書

第2年次



令和3年3月



高知県立室戸高等学校

MUROTO HIGH SCHOOL

はじめに

高知県立室戸高等学校長 藤田 勇人

新学習指導要領では、未来を切り拓くために必要な資質・能力を身に付けるとともに、地域への課題意識や貢献意識をもち、将来、地域で地域ならではの新しい価値を創造し、新たな時代を地域から分厚く支えることのできる人材の育成が求められています。

室戸高等学校では、地域への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、グローバルな視点をもって地域の発展に貢献できる人材の育成を目指し、様々な教育活動に取り組んでまいりました。一般的に言われている「着眼大局 着手小局」や「Think Global, Act Local」といった資質を身に付けた人材が本校において理想とする将来の生徒像でもあります。

さて、本校が位置する室戸市全域は世界ジオパークネットワーク GGN (Global Geoparks Network) に加盟し、室戸ユネスコ世界ジオパーク、日本ジオパークに認定されています。県東部地域唯一の総合学科の高等学校として、地域理解と地域の課題発見解決学習を行うため、総合学科としての科目「産業社会と人間(室戸学)」や学校設定科目である「ジオパーク学」など特色ある科目を設置し、室戸ユネスコ世界ジオパークに関わってきました。これらの取組を軸に据え、海外交流に取り組み、活動を広げる計画(令和2年度の文部科学省指定事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」)は、年度当初から新型コロナウイルス感染症の拡大により、大きく計画を変更することとなりました。

そこで、ICTを活用した交流事業に切り替え、ジオパークの観点から近隣の県市に視点を移し実体験のプログラムも新たに検討しながら、後期の学校行事を見直しました。また、各教科で本事業の関わりを整理し、横のつながりを教員が意識した活動にもなるよう校内体制を整えてきました。

また、初年度の目標「持続可能な開発のための教育」(ESD)の視点を取り入れた教育の実施に加え、「令和2年度室戸市SDGs推進本部」の立ち上げとともにSDGs達成に向けた取組を開始するなど、生徒一人一人が自分自身にできることを考え、実践していくことを身に付け、課題解決につながる多様な価値観を持つことや行動変化につなげる取組を進めています。さらには室戸ユネスコ世界ジオパーク地球活動遺産の保護と活用の推進に向けた室戸ジオパーク推進協議会との連携・協働を進めてきました。

このような継続した取組が令和3年1月30日「地域との協働による高等学校教育改革推進事業 グローカル型 Glocal High School Meetings 2021 全国高等学校グローカル探究オンライン発表会」において、英語発表部門「金賞」、併せて最高位である「文部科学省初等中等教育局長賞」を受賞、同日本語発表部門においても「銀賞」をいただいたことは、本校の取組の方向性を改めて確認できたとともに、大変励みにもなりました。

本事業申請段階より生徒数がさらに少なくなっている小規模校ではありますが、地域唯一の高等学校であり、地域が一体となって支援していただいている高等学校でもあります。そして、室戸市にはたくさんの財産があり、その財産は学習の教材としても本校に大きな学びの場を与えてくれます。

今後も、本校は、学校と地域が一体となり、未来を担う生徒たちの教育に日々邁進してまいります。

目次

第1章 研究開発の実施報告

I 地域との協働による高等学校教育改革推進事業について	
1 事業の趣旨	2
2 事業の実施期間	2
3 指定校名類型	2
4 研究開発名	2
5 研究の背景	2
6 研究開発概要	3
7 教育課程の特例の活用の有無	3
8 コンソーシアムにおける研究開発体制	3
9 海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員について	7
10 運営指導委員会について	7
11 その他の主な本校の支援団体	8
12 校内体制	9
13 実施実績概略	11
II グローカル人材育成のための特色ある科目の実践	
1 「産業社会と人間」	13
2 「続・産業社会と人間」	23
3 「課題研究」	38
4 「ジオパーク学」	46
III 国際交流活動	
1 ランカウイユネスコ世界ジオパークとの交流	55
2 オーストラリア ポートリンカーン高校との交流	56
3 その他の国際交流活動	58
IV 国内交流活動	
1 三好ジオパーク構想地域 交流活動	61
2 長崎県立口加高等学校とのオンライン交流（遠隔システム）	62
3 三好ジオパーク構想推進協議会 教育部会への参加（遠隔システム）	64
4 本校の地域貢献活動の実績	65
5 国際生徒研究発表&JICA	68
6 地方創生アイデアコンテスト	69
7 グローカル探究発表会	70

V カリキュラム開発

1 教科横断型カリキュラムの作成	74
2 SDGsを活用した授業実践 (理科)	74
3 SDGsを活用した授業実践 (数学)	75

第2章 評価

I 本年度の評価

1 成果実績	78
2 評価	78
3 令和2年度運営指導委員会	82

別添資料

第 1 章 研究開発の実施報告

I 地域との協働による高等学校教育改革推進事業について

I 地域との協働による高等学校教育改革推進事業について

1 事業の趣旨

高等学校及び中等教育学校の後期課程（以下「高等学校等」という。）と市町村、高等教育機関、産業界等が協働してコンソーシアムを構築し、高等学校等における地域課題の解決等の探究的な学びを通して、未来を切り拓くために必要な資質・能力を身に付けるとともに、地域への課題意識や貢献意識をもち、将来、地域で地域ならではの新しい価値を創造し、新たな時代を地域から分厚く支えることのできる人材（以下「地域人材」という。）の育成を図ることとする。

2 事業の実施期間

令和2年4月10日（契約締結日）～令和3年3月31日

3 指定校名類型

学校名 高知県立室戸高等学校 学校長名 藤田 勇人
類 型 グローカル型

4 研究開発名 目指せ！持続可能な社会の担い手を育む教育の実践

5 研究の背景

高知県室戸市においては、少子高齢化が急速に進み、市としては現在全国で5番目に少ない人口となっている。また、高齢化が進み、雇用の減少などの課題を抱えており、これからの室戸市を支える人材育成が喫緊の課題である。過疎化が進む本市に元気を取り戻すには、地域の人材育成に向けた組織的・継続的な取組が必要であり、その仕組みづくりが急務である。

室戸地域はユネスコ世界ジオパークに認定されており、これが地域の大きな特色のひとつとなっている。ユネスコ世界ジオパークの基本理念は、地域に残る自然遺産及び文化遺産をツーリズム、教育、防災などに生かすことで地域経済の持続可能な発展を目指すという部分にある。そこで、本研究においては、ユネスコ世界ジオパークに関わる地域唯一の学校として、その資源を有効に活用し、世界のさまざまな地域と関わることで、グローバルな視点で物事を捉えることができる資質を持つ人材を育てたいと考えた。

これまで室戸高等学校は、地域への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、地域の発展に貢献できる人材の育成を目指しており、室戸ユネスコ世界ジオパークに関わる地域唯一の高等学校（総合学科）として地域理解と地域の課題発見・解決学習に取り組んでおり、地域教育や資源の保護・保存にもこれまで大きな役割を担ってきた。

今後は、現在の地域課題の解決の取組に加え、持続可能な開発のための教育（ESD）のなかで、グローバルな視点を取り入れた教育をさらに推進することで、生徒一人ひとりが自分にできることを考えて実践していく力を身に付け、世界的な視野を持って地域で活躍できる人材の育成を目指す。

6 研究開発概要

E S Dの視点で地域貢献につながる活動を体系化する。また、ジオパークを題材にした国際交流体験によるグローバルな視点を加えた、カリキュラム・マネジメントを開発し、本校がこれまで取り組んできたキャリア教育によって培われてきたキャリアを形成する基礎的・汎用的能力をさらに向上させる。

これまでの科目「産業社会と人間（室戸学）」、「ジオパーク学」、「課題研究」、キャリア教育の取組をさらに発展させ、人とのつながりの深化、地域への貢献を目標としたカリキュラム・マネジメントの開発に取り組む。

さらに、E S Dの視点で地域貢献につながる取組を体系化するとともに、ユネスコ世界ジオパークのつながりで国内外の関係機関との交流に取り組み、生徒が積極的に活動する機会を与える。

これらの取組によって、将来、地域産業を支えるグローバル人材を育成する。

7 教育課程の特例の活用の有無 無

8 コンソーシアムにおける研究開発体制

室戸高等学校の校内の推進体制としては、従前から国際関係の取組を企画・運営してきた国際交流推進委員会をE S Dの視点で見直し、海外交流アドバイザーを加え昨年度から再編成を行った。

また、地域や関係機関との連携のため、室戸市教育委員会をはじめ、地域の企業、商工会、関係機関などの代表等、外部委員による学校運営協議会を構成し、企画運営への助言を計画している。

一方、地域人材を活用した校外推進体制としては、「室戸市まち・ひと・しごと創生推進事業」に基づき、地域課題の解決等に向けた取組と海外交流による効果的な人材育成に向けた取組の検討を進めるため、学識経験者を含むコンソーシアムを構築している。

(別添資料参考)

(1) コンソーシアム構成団体及び研究開発体制

機関名	役割	機関の代表者名
室戸ジオパーク推進協議会	<ul style="list-style-type: none">・国内外の世界ジオパーク関連施設との交流や現地校との連携・室戸高校とジオパークのPR活動・国際交流企画及び調整	会長 室戸市長 植田 壯一郎
室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会	<ul style="list-style-type: none">・地域実践活動についての指導・助言・地域課題についての問題	委員長 赤池 慎吾 (高知大学次世代地域創造センター准教授)

	提起 ・課題解決学習や交流学習 についての指導・助言	
室戸市E S D活動拠点センター	・産業社会と人間、ジオパーク学、室戸学への講師派遣 ・室戸市E S Dへの協力	室戸市観光ジオパーク 推進課 課長 大西 亨
高知県立室戸高等学校	研究開発に関する総括	校長 藤田 勇人
高知県教育委員会	全体総括	高知県教育長 伊藤 博明

(2) コンソーシアムにおける協議内容等

ア コンソーシアムにおける活動

○室戸高校魅力化の会

「室戸高校の魅力化の会」は、室戸市の人口減少、室戸高校の志願者数減少の現状が続くなかにおいて、室戸高校の入学志願者を増やす方策について協議し、室戸高校の魅力をもっと高めることを目的に、室戸市教育委員会が主催となって、室戸市商工会、室戸市内の金融関係、室戸市財政、室戸市中学校からなる室戸高校の支援団体である。

- 11月5日 生徒活動報告、室戸高校のPR、公設塾、学校支援について協議
- 2月25日 成果報告、地域課題の解決に高校生力を活用する企画提案

○室戸ユネスコジオパーク推進協議会

- 7月1日 生徒活動報告、本年度活動概要の説明
- 10月 世界ジオパーク高校生交流会開催について協力依頼

○室戸市総合振興計画策定会議

- 10月8日 室戸市の行政、産業、教育の今後について協議、生徒活動報告

○室戸市友好交流協会

- 11月2日 ポートリンカーン市との友好都市締結30周年について協議

○室戸市保小中高・園長連絡協議会

- 12月16日 生徒活動報告
高校生と保育園・小学校・中学校との協働内容について検討
- 2月17日 成果報告

○室戸市長

- 9月1日 女子野球支援について
- 11月12日 室戸高校生徒に英会話力を身につけさせる構想を協議

○その他

室戸市人権教育研究会（3回）、室戸市青少年補導センター運営協議会（2回）

室戸市教育委員会（1回）、室戸市移住促進室（2回）

室戸市学校適正規模検討委員会（1回）

室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会（1回）

○生徒と地域の協働

NO	地域団体	日程	活動内容・対象生徒
1	NPO 法人 夢創房室戸迎鯨の杜	6. 21	海辺の生物観察会ボランティア ・生徒希望者 8 名
2	丸山長寿園	6. 22～26 11. 9～ 11. 13	施設実習 ・福祉系列選択生徒 高齢者施設でのレクリエーション実践 ・福祉系列選択生徒
3	むろと保育所	7. 8 7. 27、 10. 20 10. 30	幼児教育についてアンケート調査 ・課題研究活動生徒 幼児英語教育についてアンケートと英語活動の実践 ・課題研究活動生徒 ハロウィン行事の幼児の活動について ・福祉系列選択生徒
4	室戸中学校	8. 22 11. 13	部活動の中高交流について ・卓球部自主活動生徒 室戸市の人口減少対策について ・福祉系列選択生徒
5	室戸市商工会	9. 22	スポーツによる地域経済の活性化について調査 ・課題研究活動生徒
6	安田中学校	10. 23	室戸市の人口減少対策について ・課題研究活動生徒
7	室戸漁業実習生受け入れ団体	11. 1	インドネシア人漁業実習生へ日本語指導について調査 ・課題研究活動生徒
8	室戸ドルフィンセンター	11. 9	ジオパーク MV の制作について ・課題研究活動生徒
9	室戸市交通安全協会	11. 10	「いい点灯の日」啓発活動 ・生徒会、生徒希望者

10	室戸市役所 産業振興課	11. 16	高知家地方創生アイデアコンテスト 2020 のプレゼンテーション内容に関する聞き取り調査 ・参加希望生徒3名
		2. 16	ジオパークと海洋深層水についての聞き取り調査 ・課題研究活動生徒
11	サンシャイン室戸 (スーパー)	1. 26	交通死亡事故防止活動ボランティア ・生徒会、生徒希望者

イ 地域実践活動の助言について

- ・コロナ禍の中で交流活動がオンライン開催となるが、実際にマレーシアに行ったことがある生徒と、一度も行っていない生徒の双方に、いかにグローバルを担保していくのが大事である。
- ・オンラインで何ができて何ができないのかを整理する必要がある。オンラインの方がより積極的に参加できる生徒もいる。
- ・高知のもったいないことは、留学して帰ってきても、学んだことを地域で発揮する場がないことである。これが高知県や室戸の課題である。生徒が生き生きできる場をどのように作っていきけるのかを、このコンソーシアムの会で検討していきたい。地域協働を発展させるためには、世界へ目を向け、広げていくしかない。室戸でしか通用しない人材を育てても仕方ない。室戸で通用すれば世界でも通用する人材育成が重要。
- ・中身や内容ではなく、一緒に育てるという考えを、地元企業にも持ってもらい必要がある。生徒が外部の地域の人のことを理解していくことが、地域理解の本質に通じる。高知の高校生は地域貢献を頑張るが、すぐに商品開発をする傾向がある。成功体験としては大事だが、地域理解の本質として、地域に住む人の気持ちを考えることにも取り組んでもらいたい。

9 海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員について

(1) 海外交流アドバイザー

室戸ユネスコ世界ジオパークに関わっている者で、海外の機関と連携交渉及び生徒交流の中心的な業務を担った。

職	氏名
室戸ジオパーク推進協議会 国際交流専門員	小笠原 翼 氏
活動期間 令和2年5月～令和3年3月 主な活動内容 ・ランカウイについて情報収集 ・三好ジオパーク構想地域訪問事業の行程表案作成 ・三好ジオパーク構想地域訪問事業資料作成 ・代表生徒との勉強会 ・ユネスコ世界ジオパーク関係機関との連絡・調整	

(2) 地域協働学習実施支援員について

地域協働学習実施支援員は、地域課題の解決等の学習の企画・外部との調整・運営に係る業務を担い、総合的な探究の時間や各種協議会に参加した。

また、国内のジオパーク関係職員と学校をつないだ。

職	氏名
室戸ジオパーク推進協議会 国際交流専門員	小笠原 翼 氏 ※海外交流アドバイザー兼務
活動期間 令和2年5月～令和3年3月 主な活動内容 ・日本ジオパークネットワーク（JGN）全国大会 口頭発表申し込み、プレゼンテーション準備、代表生徒とのミーティング ・職員会での情報共有 室戸ジオと高校生の活動について ・国内交流事業に係る予算協議 ・SDGs研修会企画運営	

10 運営指導委員会について

学校教育に専門知識を有する者、学識経験者、行政機関の職員等、第三者による運営指導委員会を構成し、取組状況を共有するとともに企画運営に対して助言をいただいた。

(1) 構成員

委員氏名	職
岩井 雅夫	高知大学海洋コア総合研究センター 教授
高橋 唯	室戸ジオパーク推進協議会 地質専門員
近森 憲助	高知学園大学 学長
杉尾 智子	高知県青年国際交流機構（高知県 IYEO）職員
別府 誠	高知県 観光振興部 地域観光課長

(2) 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和2年11月2日（月） （第1回） 13:30～15:20	・令和2年度の取組について説明 ・産業社会と人間等、事業とかかわる科目の年間指導計画の確認 ・新型コロナウイルス感染症による計画の変更について ・事業成果のまとめ方について協議し、方針を決定
令和3年2月16日（火） （第2回） 13:55～16:10	・1年次 産業社会と人間 授業参観 ・Glocal High School Online Meetings 2021 全国高等学校グローバル探究オンライン発表会 金賞・銀賞受賞報告 ・1年間の総括と次年度の計画についての協議 ・教科間連携についての協議

11 その他の主な本校の支援団体

本校に対する地域の支援は厚く、様々な団体からこの事業を行う上でのアドバイスをいただいた。

- (1) 学校運営協議会
学校運営に関わる支援
- (2) 室戸高等学校魅力化の会
学校振興のための対策、財政的支援の検討など
- (3) 室戸市内各企業
インターンシップ、商品開発等

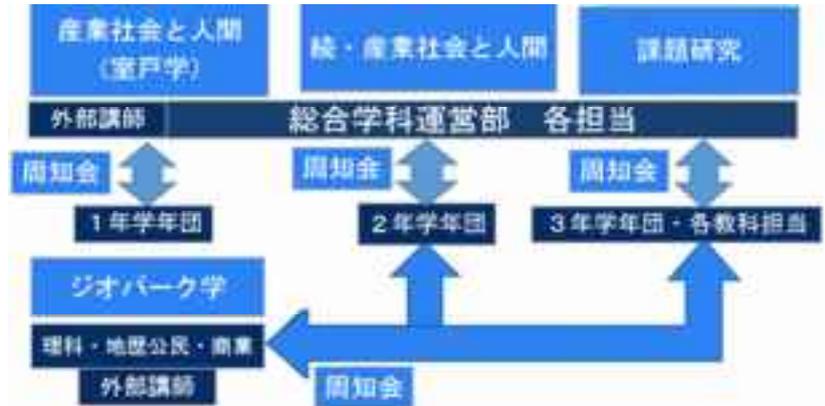
【本校の支援団体における取組の総括】

運営指導委員会、コンソーシアム、その他の支援団体における主体的な取組をまとめると次のとおりである。

- (1) 円滑な事業執行のための学校への助言
- (2) 国費に上乗せした独自の支援や取組の実施
- (3) 地域協働学習実施支援員の配置やジオパーク学習に関する助言
- (4) マレーシア・ランカウイジオパークとの連絡調整
- (5) 地域振興にかかわる研究テーマの提言と成果発表への教員及び生徒の参加費支援
- (6) 他県のジオパーク推進協議会と学校との連携支援
- (7) S D G s などの学習等、地域イベントや研修会への生徒招待
- (8) 生徒の商品開発への支援
- (9) 「産業社会と人間」「ジオパーク学」に関するカリキュラム開発
- (10) 「課題研究」の効果的な進め方と学習評価
- (11) 室戸高等学校の振興策の検討

12 校内体制

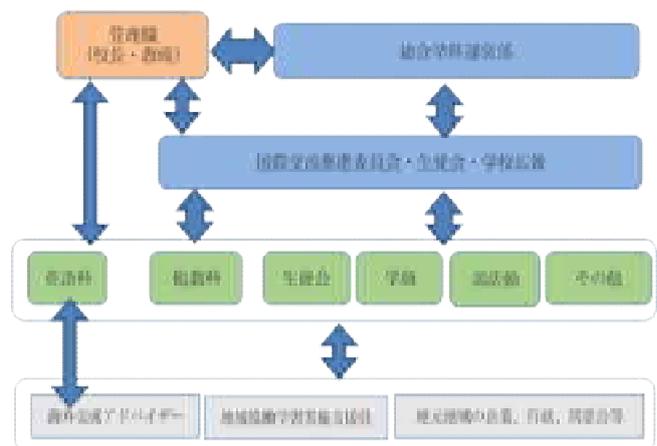
本校では、総合学科の特色を生かし、多様な選択教科・科目を通じて、様々な知識や技能を養い、問題の解決や探究活動に生徒が主体的、協働的に取り組む態度を養っている。



特に科目「産業社会と人間」の学習では、地域や産業界等と積極的に連携を図り、郷土理解を深める目的で、ジオパークに関連する学習を「室戸学」と名付け、年間6回外部講師を招き、基本的な知識と課題解決に取り組む姿勢を身に付けさせた。そして2年次の「続・産業社会と人間」の授業に円滑に連結させ、地域の企業の経済活動を知り、働くことの意義や社会人としての責務を理解することにつなげていくことにした。

また、学校設定科目として開設している「ジオパーク学」の授業では、ユネスコ世界ジオパークの基礎知識を身に付けるだけでなく、各個人がジオパークの魅力や課題を発見し、地域の専門家の支援を受けながらジオパークに関する課題解決学習に取り組んだ。そして、その結果については、発表会を開催して活動を地域に広めた。さらに、3年次には「課題研究」において、生徒個人やグループで決めたテーマについて調査研究し、その成果を発表した。

また、この学校全体の研究開発体制については従前から国際関係の取組を企画・運営してきた国際交流推進委員会を見直し、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員を加え再編成した。



本校では全ての教育活動を地域貢献につなげるという目標を設定し、生徒会活動など特別活動、学校行事や地域行事への参加、部活動、教科など、すべての教育活動が地域の活性化に連動し、地域を元気にする源となるよう取り組んできた。

教科横断的な取組

科目	職名		国際交流	運営委員会	総文弁論等	産社	統・産社	課題研究	ジオ学	生徒会・家ク	広報	就職・進学	防災	道徳	備考
	校長	藤田 勇人	○	○	○						○				総括
	教頭	北村 誠一	○	○	○						○	○	○	○	教職員支援
国語	教諭	穂積 洋子		○								○			進路指導主事
	教諭	田中 裕生			○		○				○	○	○		
	期講	中島 夕貴									○				
	教諭	徳弘 克己						○	○	○		○		○	道徳・主権者教育
地歴 公民	教諭	丁野 晃輔				○							○	○	
	教諭	安宅 和輝			○						○				情報担当
数学	教諭	亀井 樹奈						○							
	期講	森澤 匡貴				○						○			
	教諭	岸野 信典	○	○					○						教務主任・吹奏楽部
理科	教諭	安藝 侑祐				○		○	○						生徒会主担当
	期講	松田 朋樹									○				
	教諭	大和田 彩	○			○									海外交流
英語	教諭	尾知 桃子	○					○							海外交流
	教諭	須賀あさひ	○									○			海外交流
	教諭	横田 尊						○					○		女子野球監督・2年学年主任
保健 体育	教諭	本田 貴久			○					○	○				ボランティア
	教諭	清遠 瑞	○	○	○			○							人権主任・3年学年主任
芸術	教諭	三谷 真美	○	○	○	○	○	○							総合学科運営部長
	期講	氏次 礼						○							音楽部
	教諭	山崎 直美	○	○	○					○	○				総務主任
家庭 福祉	教諭	盛田奈々代	○		○		○			○					家庭クラブ・生徒会担当
	教諭	中島 侑一	○	○	○			○							生徒指導主事
	教諭	柴原 享一		○				○							1年学年主任
商業	期講	中西謙太郎							○			○			
	教諭	有藤 太亮					○	○					○		防災担当代表
工業	期講	馬詰 岳													
	養護	養諭	谷村 文子							○					学校保健委員会
総合	実助	公文 理江				○	○	○			○				
支援団体、企業、人材			室戸ジオパーク推進協議会・海外交流アドバイザー・定時制教諭	室戸高校魅力化の会・室戸市学校運営協議会他	室戸市・安芸桜ヶ丘高校	ジオパーク推進協議会・観光ガイドの会・卒業生・JICA・企業	室戸市内各企業	むろと保育園、各老人ホーム、室戸市役所、他	ジオパーク推進協議会、室戸市役所、観光ガイドガイドの会	各種団体	キラメツセ室戸、山本かまぼこ	PTA・室戸市・その他	就職アドバイザー、ハローワーク・県教委	県教育委員会・室戸市防災対策課・室戸ジオパーク推進協議会	県教育委員会

さらに、各日本国内の世界ジオパーク認定地域の学校間で交流を進めるだけでなく、海外交流の場も拡大させ、室戸地域と同じくマレーシア初の世界ジオパークの認定を受けているマレーシア国ランカウイユネスコ世界ジオパーク関係機関及び関係高校との交流を開始し、地域の魅力を伝え、生徒たちは地域の課題について考えはじめた。

なお、このために必要な英語力を高めるため、地域素材を生かした教材を作成し、国際交流指導員等地域の方々と協働した英語指導を行った。

13 実施実績概略

次の表は実施した項目を月別に整理したものである。

実施項目	実施日程											
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
○E S D体制・プログラム開発と実践												
産業社会と人間				2回		3回	1回	1回	1回		2回	
続・産業社会と人間	通年で取組（11月に企業見学会）											
課題研究	通年で取組（12月に発表会）											
総合学科発表会											中止	
ジオパーク学	通年で取組											
○地域貢献活動			2回	2回	1回	1回	3回	6回		1回	1回	1回
○地域交流								1回		1回		
○国際交流												
オーストラリア交流								1回	1回			
A P G N会議参加						延期						
ランカウイ訪問								中止				
○国内学校間交流								1回		3回		
○教科横断的な学習				1回		1回		1回	1回		1回	1回

第 1 章 研究開発の実施報告

Ⅱ グローカル人材育成のための特色ある科目の実践

II グローカル人材育成のための特色ある科目の実践

地域と学校が協働して地域課題を解決する探究的な活動の場を提供することで、生徒が主体的にテーマを設定し、課題解決に積極的に取り組み、地域を支える人材を育成できると考えた。

そして、このプログラム開発の主体であり、総合学科において特色ある科目である「産業社会と人間」、「続・産業社会と人間」、「課題研究」、「ジオパーク学」の各科目では、「体験する」、「気付く」、「探究する」、「発表する」、「振り返る」という一連のプロセスに基づき、「室戸を知り、室戸のすばらしさを伝える」こと、「室戸ユネスコ世界ジオパーク」の豊富な素材、人材を活用すること、さらに海外交流活動を積極的に取り入れることでグローバルな視点を持って地域課題解決に取り組める人材の育成を目指した。



1 「産業社会と人間」

(1) 概略

1 年次（2 単位）

総括：総合学科運営部 担当：ホーム主任

地域支援：ジオパークに関連する学習を「室戸学」と名付け「産業社会と人間」の年間指導計画に位置付け、企業等外部講師（企業等）、室戸ジオパーク専門員が担当

(2) 目標

職業の選択決定に必要な能力・態度、将来の職業生活に必要なコミュニケーション能力をつけるとともに、自己の充実や生きがいを目指し、生涯にわたって学習に取り組む意欲を身に付ける。

また、現実の産業社会やその中で自己のあり方・生き方について認識し、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度を学習する。

(3) 年間指導計画と評価規準

1 学 期	「知る」 室戸の魅力やジオパークについて意見を出し合う。	観光施設だけではなく、人口や学校など、生活環境も含めて、室戸について知っていることを出し合う。あるもの／ないもの／分からないものを洗い出し、客観的に室戸を認識する。
2 学 期	「体感する」「考える」 ジオパーク資源の活用法について考える。	体験を踏まえて感じたジオパークの魅力とは何か。その魅力を今、室戸市や市民はどのように発信しているか。自分ならどうするか。
3 学 期	「考える」 自分の将来と室戸との関わりについて考える。 →「続・産業社会と人間」就業体験。自分にできることは何かを考える。 →ジオ学 室戸ジオを活用したいことを形にする。	1学期、2学期の学習を踏まえて、人や場所など室戸の魅力・資源は何か。 どうやってそれらの資源を活用し、室戸を活性化していけばよいか。

回数	実施日	学習内容	時間数
1	4/8	スタディサプリ 適性診断実施	2
2	4/14	「産業社会と人間」についてのオリエンテーション①	2
3	5/19	個人面談	2
4	5/26	科目選択説明および系列説明会	2
5	6/2	科目選択の実施（個人面談）①	2
6	6/16	スタディサプリ 適性診断結果配布	2
7	6/28	科目選択の実施（個人面談）②・各教科ガイダンス	2
8	6/30	科目選択の実施（個人面談）③	2
9	7/7	室戸学①（ジオパーク）	2
10	7/21	室戸学②（調べ学習）	2
11	7/28	室戸学③（模造紙作成・発表）	2
12	8/25	室戸学④（発表練習・発表）	2
13	9/1	室戸学⑤（炭玄）	2
14	9/8	室戸学⑥（室戸岬周辺）	2
15	9/15	室戸学⑦（振り返り）	2
16	9/29	ライフプラン作成①	2
17	10/6	ライフプラン作成②	2
18	10/13	ライフプラン作成③	2
19	10/27	ライフプラン作成④（プレゼンテーション）【高知工科大学訪問教育】	2
20	11/10	スピーチアウトラインの作成／発表練習	2
21	11/17	ライフプラン発表（各ホーム単位）	2
22	11/24	まとめ模造紙作成①（室戸学①～⑦）	2
23	12/1	ライフプラン学年発表会（1年次生全体）	2
24	12/22	まとめ模造紙作成②（室戸学①～⑦）	2
25	1/12	清掃ボランティア活動（雨天時：まとめ模造紙作成）	2
26	1/19	まとめ模造紙作成③（清掃ボランティア）	2
27	1/26	ライフプランパソコン入力①	2
28	2/2	ライフプランパソコン入力②/まとめ模造紙作成④	2
29	2/9	室戸学⑧（地域産業：ジオカフェ、ジオショップ）	2
30	2/16	室戸学⑨（室戸学のまとめ）	2
31	3/2	年間のまとめ（続産について）、産社アンケート、ライフプラン冊子作製	2

評 価 規 準	関心・意欲・態度	自ら室戸の魅力・課題について知ろうとしている。
	思考・判断・表現	地域の活性化について、複数の意見を参考にして自分の意見をまとめて、わかりやすく伝えることができる。
	技能	他人に分かりやすく自分の意見を表現できる。
	知識・理解	各テーマの基本的な知識を身に付けている。

(4) 本年度の改善点

昨年度に引き続き、「活動は地域貢献につながることを意識することが大事」ということを事前に生徒へ伝え、必ず振り返りの時間を確保した。

また、1年次から課題解決の提案まで行わせることが生徒にとって効果的であると判断し、グループワークと発表を室戸学①から室戸学⑨の授業に積極的に導入した。

さらに、必ずまとめの時間をとって、模造紙等に成果をまとめる作業やプレゼンテーションをさせた。なお、到達目標を明確にして学習内容が積み重なっていく実感を伴うように努めた。当初は1年次生ではハードルが高いのではないかと考えていたが、授業実践した結果、生徒が積極的にグループワークを行い行動し、協働して集団としての意見を発表することができていた。

(5) 室戸学①

日 時：令和2年7月7日

13:10～13:30 打ち合わせ

13:30～13:35 講師紹介

13:35～15:15 講演・グループ活動・発表

15:15～15:20 生徒代表挨拶

場 所：室戸高等学校 視聴覚室（南舎 3階）

講 師：室戸ジオパーク推進協議会

地理専門員 高橋 唯、国際交流専門員 小笠原 翼

演 題：室戸ユネスコ世界ジオパークについて

ねらい：本年度に室戸高校に入学した生徒に対し、高校での学習の意義を知り、主体的な学習態度を育成する。そして、地域を知り、その課題に向き合うことができる能力・態度を涵養することをねらいとする。

※指導案省略



講師の方がそれぞれ【自分の住んでいる（住んでいた）町】について簡単に紹介し、その後に、生徒がグループに分かれて【自分たちの住んでいる町】について話し合い、まとめの作業を行った。室戸を知らない人に室戸を説明するためにはどうすればよいのか、各グループが意見を出し合いながら活発なグループワークが展開された。また、それぞれの住んでいる町を比較することで、地域の魅力を知るきっかけにもなった。

(6) 室戸学②

日 時：令和2年7月21日

13:30～13:35 本時の内容説明

13:35～15:00 グループワーク（各班に分かれて調べ学習）

15:00～15:20 産社ノートへの記入

場 所：室戸高等学校 図書室（南舎 2階）

ねらい：前回の室戸学で学んだ室戸の魅力をキーワードにして、グループ活動を行いながら、調べ学習の方法を身に付ける。

1班3人程度で構成し、活動が停滞している班や困っている班には、教員が投げかけをしたり、ヒントを出したりしながら活動の補助を行う。また、導入部分には「ボブジテン」を活用し、自分自身の学習の定着状況を生徒に再確認させてから調べ学習に取り掛かるなどの工夫を講じた。

※指導案省略

(7) 室戸学③

日 時：令和2年7月28日

13:30～13:35 本時の内容説明

13:35～14:20 模造紙作成

14:30～15:05 発表

15:05～15:20 産社ノートの記入

場 所：室戸高等学校 405教室、各ホーム教室（北舎 4階）

「産業社会と人間」学習計画案

日 時	7月28日（火）5・6限	形 式	作業
場 所	405教室、各ホーム教室	担当者	各ホーム担任・副主任
項 目	室戸学③		
主 題	室戸学①・②のまとめ		
本時の目標	・前時の活動内容を模造紙にまとめることで、情報の整理・分析の仕方を身につける。 ・発表や他者との意見交換を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。		
資 料	産社ファイル → ホーム主任の先生が準備 模造紙、マジックペン、書き方見本、産社ノート（小） → 運営部が準備		
時 間	指 導 内 容	留 意 事 項	
朝のSH	グループ分けと日程の確認	○ 教室掲示の一覧で、各自の班を確認させる ○ 筆記用具と産社ファイル、キャリアノートを持って、13:25には405教室へ移動することを伝える	
5限目 13:25～	筆記用具とキャリアノートを持って、405教室へ移動	○ ホーム主任の先生は、405教室で産社ファイルを配布できるように準備しておく	

13:30～	1. 本時の内容説明【約5分】 <ul style="list-style-type: none"> ・出欠確認 ・座席の確認（班ごとに着席） ・これから行う作業手順を説明する <ul style="list-style-type: none"> ① 模造紙の作成の仕方 ② 発表のルール 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1人の生徒に模造紙作成や発表を押し付けたりせず、協力して作業するように指導する ○ 全班に模造紙、マジックペン、書き方見本を配布する
13:35～ 15:10	2. 模造紙作成 <ul style="list-style-type: none"> ① 個人で記入したワークシートをグループで話し合い、内容を模造紙にまとめて書く。 ② グループの発表の仕方について話し合っておく（誰がどの部分を担当するかなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前回調べた内容を出し合って、まとめていく ○ グループ内でうまく進行できない場合は、教員が手助けして、意見交換、まとめができるようにする
15:05～ 15:20	3. 産社ノート（小）を記入する【約15分間】	

(8) 室戸学④

日時：令和2年8月25日

13:30～13:35 内容説明

13:35～14:00 発表練習

14:00～15:00 発表

15:00～15:10 まとめ

15:10～15:20 産社ノートの記入

場所：室戸高等学校 405教室（北舎 4階）

「産業社会と人間」学習計画案

日 時	8月25日（火）5・6限	形 式	発表
場 所	405教室	担当者	各ホーム担任・副主任
項 目	室戸学④		
主 題	室戸学①・②のまとめ		
本時の目標	発表や他者との意見交換を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。		
資 料	産社ファイル → ホーム主任の先生が準備 模造紙、産社ノート（小） → 運営部が準備		
時 間	指 導 内 容	留 意 事 項	
朝のSH	座席と日程の確認	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教室掲示用の一覧で、各班を確認させる ○ <u>筆記用具とファイルを持って、13:25には405教室へ移</u> 	

13:25～	筆記用具とキャリアノートを持って、405教室へ移動 →班別に集合する	動することを伝える ○ ホーム主任の先生は、405教室で産社ファイルを配布できるように準備しておく
5 限目		
13:30～	1. 本時の内容を説明 ・ 出欠確認 ・ 座席の確認（班ごとに着席） ・ これから行う作業手順を説明する ① 発表の仕方 ② 評価表の書き方	
13:35～	2. 発表練習 ① グループの発表の仕方について話し合っておく（誰がどの部分を担当するかなど） ② 発表する際の工夫ポイントが説明できるようにしておく	○ グループ内でうまく進行できていない場合は、教員が手助けして意見交換、まとめができるようにする ○ 全員が発表機会を持てているかどうか確認させる
14:00～	3. 発表 ① 1班A→1班B→2班A→… ② 発表時間は各グループ5分程度（3グループ発表） 休憩〔10分間〕	○ 発表が終わり、自発的な質疑応答がなければ、次に発表する班から質問・感想を出させる
6 限目		
14:30～	4. 発表（続き） （5グループ発表）	○ 発表が終わり、自発的な質疑応答がなければ、次に発表する班から質問・感想を出させる
15:00～	5. まとめ	○ 今回の活動で調査の仕方を学び、他者との交流から新しい発見があったか、協力することの大切さを学べたかなどを問いかけてみる
15:10～	6. 産社ノート（小）を記入する	
15:20		

(9) 室戸学⑤

日 時：令和2年9月1日

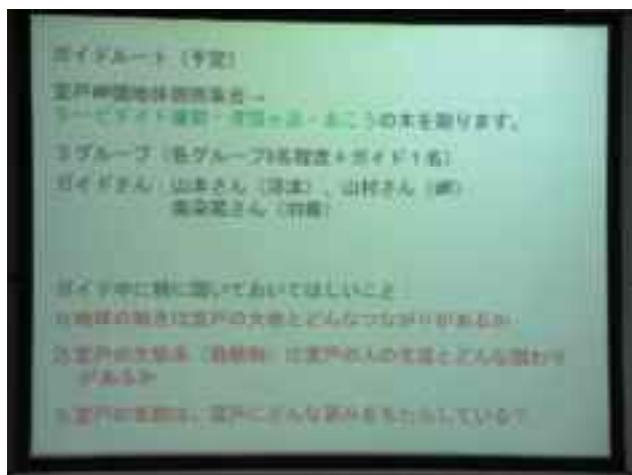
13:10～13:30 打ち合わせ
13:30～13:35 講師紹介
13:35～15:15 講演
15:15～15:20 生徒代表挨拶

場 所：室戸高等学校 視聴覚室（南舎3階）

講 師：遍路の駅 夫婦善哉 谷口 洋介

ねらい：本年度に室戸高校に入学した生徒に対し高校での学習の意義を理解させ、主体的な学習態度を育成する。また、地域を知り、その課題に向き合うことができる能力・態度を涵養することをねらいとする。

※指導案省略



(10) 室戸学⑥

日 時：令和2年9月8日

13:35～ 学校出発
13:55～14:55 観光地見学
14:55～15:00 生徒代表挨拶
15:00～ 見学先出発
15:20 学校着

場 所：室戸岬周辺

講 師：室戸ジオパーク推進協議会 地質専門員 高橋 唯
国際交流専門員 小笠原 翼

ねらい：1年次生を対象に、社会と高校での学びを結びつける学習プログラム（室戸学）を企画し、生徒の主体的な学習態度を育成することを目指している。室戸学の6回目となる今回は、地域の代表的な観光地を見学して、地元の魅力や課題を見つけることをねらいとする。

※指導案省略



(11) 室戸学⑦

日 時：令和2年9月15日

13:35～ 学校出発
 13:55～14:55 観光地見学
 14:55～15:00 生徒代表挨拶
 15:00～ 見学先出発
 15:20 学校着

場 所：視聴覚室

講 師：室戸ジオパーク推進協議会 国際交流専門員 小笠原 翼

ねらい：社会と高校での学習を結び付ける学習プログラム（室戸学）の7回目となる今回は、グループ学習をとおして、前回、訪れた見学地を振り返り、地元の魅力や課題などの理解を深めること、自分の考えを発表することに慣れること、いろいろな意見を受け入れることをねらいとする。

「産業社会と人間」学習計画案

日 時	9月15日（火）5・6限	形 式	作業
場 所	視聴覚室	担当者	各ホーム担任
項 目	室戸学⑦		
主 題	室戸の魅力について考える		
本時の目標	9月8日の室戸学⑥の授業内容を振り返り、見学した観光地の良さや課題について		

	整理し、グループ学習によって内容の理解を深める。	
資 料	産社ファイル → ホーム主任の先生が準備 模造紙（1/2サイズ）（各班 1 枚）、ペン（各班 1 セット）、ホワイトボード、マジック、付箋 → 運営部が準備	
時 間	指 導 内 容	留 意 事 項
朝のSH	座席と日程の確認	○ <u>筆記用具とファイルを持って、13:25 には視聴覚室へ移動</u> することを伝える
13:25～	筆記用具を持って、視聴覚室へ移動 →班別に集合する	○ ホーム主任の先生は、視聴覚室で産社ファイルを配布できるように準備しておく
5 限目 13:30～	1. 本時の内容を説明 ・ 出欠確認 ・ 講師の紹介 室戸ジオパーク推進協議会 小笠原 翼 ・ 活動の流れ グループ分け→班で意見の出し合い→班の意見のまとめ→班のまとめを発表→小笠原さんによるまとめ	
13:35～ 14:20	2. グループに分かれる（4人×6班） 3. 班ごとに室戸学⑥（観光地見学）を振り返る ① 8日に室戸岬でガイドしてもらった内容から発見したこと、気付いたことを産社ノートを見ながらグループで考え、模造紙 Or ホワイトボードにまとめる【45分間】 休憩〔10分間〕	
6 限目 14:30～ 15:00	②5限目に班でまとめた内容について（理由も含めて）発表する【発表3分+質問2分】 4. 講師からの講評【10分間】	○ 発表がうまくできていない班があれば、教員がサポートする
15:00～ 15:10	5. 代表生徒の挨拶	

15:10~ 15:20	6. 学習のまとめ 7. 教室へ移動 産社ノート（小）を記入させる	
-----------------	---	--



2 「続・産業社会と人間」

(1) 概略

2年次（1単位）

総括：総合学科運営部 担当：ホーム主任

地域支援：室戸市内企業

(2) 目標

産業社会と人間の学習内容を継続し、自己の進路選択の再検討を行い、自己の将来像についてさらに具体化し、計画性のある生活をおくることができる態度・姿勢の育成を図る。また、3年次の「課題研究」に向けての主体的な学習態度の育成を図るとともに学び方やものの考え方を身に付ける。

(3) 年間指導計画

回	実施日		学習内容	時間数	備考
1	4	10	オリエンテーション	1	年間計画説明
2	4	16	進路学習①（職場体験希望調査）（進学・就職希望調査）	1	「進路の手引き」を使用
3	5	21	仕事を知る（DVD）	1	
4	5	28	進路学習②	1	進学・就職希望に分かれて学習
5	6	4	進路学習③	1	進学・就職希望に分かれて学習
6	6	11	進路学習④	1	志望理由書の書き方
7	6	18	履歴書作成①	1	履歴書の書き方説明、練習
8	6	25	履歴書作成②	1	履歴書の練習（志望動機まで）
9	7	2	履歴書作成③	1	履歴書の下書き（鉛筆書き）
10	7	9	履歴書作成④	1	履歴書の下書き（志望動機完成）
11	7	30	履歴書作成⑤	1	履歴書の清書、提出（厳守）
12	8	27	調べ学習①	1	
13	9	3	調べ学習②	1	
14	9	10	調べ学習③（模造紙作成）	1	
15	9	17	調べ学習④（発表）	1	
16	10	1	課題研究①	1	ガイダンス＋自己理解
17	10	8	課題研究②	1	
18	10	15	課題研究③	1	用紙の作成
19	11	5	室戸市企業見学	1	

20	11	12	室戸市企業見学事後学習①	1	
21	11	26	室戸市企業見学事後学習②	1	
22	12	3	課題研究④	1	用紙の作成
23	12	17	課題研究⑤	1	用紙の作成・提出
24	1	14		1	
25	1	21		1	
26	1	28	課題研究⑥		
27	2	4	課題研究⑦	1	
28	2	18	課題研究⑧	1	
29	2	25	1年間のまとめ	1	

(4) 主な取組

・令和2年4月16日 【進路学習①】

「続・産業社会と人間」学習計画案

日 時	4月16日(木) 6限	形 式	作業
場 所	各ホーム教室	担当者	各ホーム担任
項 目	進路学習①		
主 題	進路の手引きを使い、就職・進学について知識を深める		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職、進学するにあたっての今後のスケジュールについて知る ・進学にかかる費用や、雇用形態の違いによる差について学習する。 		
資 料	ワークシート 進路の手引き 職場体験アンケート		
時 間	指 導 内 容	留 意 事 項	
導入	ワークシートについて説明	<ul style="list-style-type: none"> ・進路の手引きを準備させる 	
展開Ⅰ (15分)	<p>①「進路の手引き」の進路決定について(P1)を読み上げて説明する。ワークシートの項目2の空欄部分に記入させる。</p> <p>②果年度の就職・進学先一覧(O40~46)のページを黙読させ、興味を持った就職・進学先をワークシートの表に記入させる。</p> <p>③進学について(P3~4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学先を決定するポイントについて、ワークシートの空欄部分に記入させる。 ・進学受験の手順について、ワークシートの空欄部分に記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路の手引き」を読みながら、自分が大切だと思う部分にはアンダーラインを引かせる。 ・就職希望者にもしっかりと内容を理解させ、ワークの作業もさせる。 ・手引きP4を読み上げて、大切な部分にはアンダーラインを引かせる。 	

	<ul style="list-style-type: none"> 学費について、学費例の表を確認させる。ワークシートの表を埋める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が進学する場合を想定して、一校種を選ばせて、初年度と4年分(2年分)の学費を計算させる。
展開Ⅱ (20分)	<p>④就職について(P19~26)について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職先を決定するポイントについて、ワークシートの空欄部分に記入させる。 就職受験の手順についてワークシートの空欄部分に記入させる。 進路の手引きの表を見て、正社員・派遣社員・フリーターの違いについて、気付いたことをまとめさせる。 <p>⑤進路希望について記入させる。</p> <p>⑥資格・検定について記入させる。</p> <p>⑦その他、進路の手引きで読んで気付いたことなどをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進学希望者にもしっかりと内容を理解させ、ワークの作業もさせる。 手引きP23は読み上げて、大切な部分にアンダーラインを引かせる。 表を見て考えつかない生徒にはヒントを出してみる。(例：ボーナスがあるのはどの勤務形態か など) 個々の進路希望に合わせた資格・検定をアドバイスする。 「進路の手引き」は続・産ファイルに綴じさせる。
展開Ⅲ (15分)	⑧. 職場体験希望調査をする。	欠席者は登校次第、記入・回収をし、運営部まで提出
まとめ	次回の予定	

2年次となり、それぞれの系列による授業がスタートしたこともあり、進路に対する意識も少しずつではあるが高まりつつある。学費についても、入学形態によっては多少の差があることも知ることで、その後の学習意欲の向上へもつながった。

授業の最後に職場体験の希望調査を実施したが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止となった。

・令和2年8月27日 【調べ学習①】

「続・産業社会と人間」学習計画案

日 時	8月27日(木)6限	形 式	作業
場 所	図書室	担当者	各ホーム担任・副主任
項 目	調べ学習①		
主 題	室戸に関連する事柄を調べる		
本時の目標	物事の調べ方を知り、実践することで調べ方を身に付ける		

資 料	続産ファイル → ホーム主任の先生が準備 ワークシート → 運営部が準備	
時 間	指 導 内 容	留 意 事 項
朝のSH	グループ分けと日程の確認	○ 教室掲示用の一覧で、各自の班（添付資料Ⅱ）、図書室の座席（添付資料Ⅲ）を確認させる ○ ホーム主任の先生は、続産ファイルを配布しておく ○ <u>筆記用具と続産ファイル、キャリアノートを持って、学年集会（多目的ホール）に行くことを伝える</u>
6 限目 学年集会後	筆記用具と続産ファイル、キャリアノートを持って、図書室へ移動	○ 校舎 2 階の東側から静かに移動させる
移動完了後	1. 本時の内容の説明〔約5分〕 ・ 出欠確認 ・ 座席の確認（班ごとに着席） ・ 各グループが担当するテーマを発表し、これから行う作業手順を説明する	○ 全員にワークシート（添付資料Ⅳ）を配布する ○ グループ学習 → 1班4人×8班 ○ 各グループが調べるテーマ（添付資料Ⅴ）を伝える ○ グループのリーダーを中心に作業を進めるように指示する ○ 資料のコピー等が必要になった場合は、担当教員に申し出ることを伝える ○ 7 限目には各グループ 2 名まで第 1PC 室で調べてもよいことを伝える
～15:20	2. グループワーク〔残り時間〕 各グループで調べ学習を行う	○ 活動が停滞している班や困っている班には、ヒントを出したり、投げかけをしたりして教員が手助けする ○ <u>調査に必要な新聞記事のコピーなどは、その班の担当教員が行う</u>
15:20～ 15:30	《休み時間》	

7限目 15:30～ 16:20	3. グループワーク〔約45分間〕 16:15をめぐりに調べ学習を終了する ○ 次回の予告 9月3日(木) 『調べ学習②』 〔図書室〕	○ LHも引き続き行う ○ PC室の生徒は、16:15までに図書室に戻させる ○ ワークシートは続産ファイルに綴じさせる
------------------------	---	--

令和2年度 続・産業社会と人間 調べ学習

添付資料
2020/8/27

2年 H 番 氏名	班																																										
【1】調査するテーマ(〇〇について)〔課題の設定〕																																											
【2】テーマに関する資料を探す〔情報の収集〕																																											
調べる方法に迷ったら、以下の中からできそうなことを選んで調査していこう 1. 図書館に行ってみる 2. ネットで調べてみる 3. まわりの大人に聞いてみる 4. 自分たちでやってみる 5. 現場に問い合わせをしてみる 6. 取材に行ってみる 7. 関係者に会って話を聞いてみる 8. 活動に参加してみる																																											
(1) 書籍																																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>書名</th> <th>著者名</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		書名	著者名	出版社	出版年	備考	1						2						3						4						5						6					
	書名	著者名	出版社	出版年	備考																																						
1																																											
2																																											
3																																											
4																																											
5																																											
6																																											
(2) インターネット																																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ホームページ名</th> <th>アドレス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		ホームページ名	アドレス	1			2			3			4			5			6			7																				
	ホームページ名	アドレス																																									
1																																											
2																																											
3																																											
4																																											
5																																											
6																																											
7																																											
(3) 聞き取り調査																																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>話を聞いた人の名前</th> <th>主な内容</th> <th>日付</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		話を聞いた人の名前	主な内容	日付	1				2				3				4				5																					
	話を聞いた人の名前	主な内容	日付																																								
1																																											
2																																											
3																																											
4																																											
5																																											
【3】テーマに関連した新聞記事を探す〔情報の収集〕																																											
自分たちが調査しているテーマに関連した記事を2つ探してみる(記事はコピーを取っておく)																																											
<table border="1"> <tr><td>新聞名:</td><td></td></tr> <tr><td>掲載日:</td><td></td></tr> <tr><td>要旨:</td><td></td></tr> </table>		新聞名:		掲載日:		要旨:																																					
新聞名:																																											
掲載日:																																											
要旨:																																											
<table border="1"> <tr><td>新聞名:</td><td></td></tr> <tr><td>掲載日:</td><td></td></tr> <tr><td>要旨:</td><td></td></tr> </table>		新聞名:		掲載日:		要旨:																																					
新聞名:																																											
掲載日:																																											
要旨:																																											

・令和2年9月3日 【調べ学習②】

「続・産業社会と人間」学習計画案

日 時	9月3日(木) 6限	形 式	作業
場 所	図書室	担当者	各ホーム担任・副主任
項 目	調べ学習②		
主 題	室戸に関連する事柄を調べる		
本時の目標	物事の調べ方を知り、実践することで調べ方を身に付ける		
資 料	続産ファイル → ホーム主任の先生が準備		
時 間	指 導 内 容	留 意 事 項	
朝のSH	日程の確認	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホーム主任の先生は、続産ファイルを配布しておく ○ <u>筆記用具と続産ファイル、キャリアノートを持って、14:25には図書室へ移動することを伝える</u> 	
14:25～	筆記用具と続産ファイル、キャリアノートを持って、図書室へ移動		
14:30～ 15:15	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回の続きであること伝える 2. グループワーク〔約45分間〕 各班に分かれて調べ学習を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループ学習 → 1班4人×8班 ○ 教室の移動や資料のコピー等が必要になった場合は、自分の班の担当教員に申し出ることを伝える ○ 活動が停滞している班や困っている班には、ヒントを出したり、投げかけをしたりして教員が手助けする ○ <u>調査に必要な新聞記事のコピーなどは、その班の担当教員が行う</u> 	
15:15～ 15:20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 15:15をめでに調べ学習を終了する ○ 次回の予告 	○ 座席の周辺を整理整頓させる	

・令和2年9月10日 【調べ学習③】

「続・産業社会と人間」学習計画案

日 時	9月10日(木) 6限	形 式	作業
場 所	各ホーム教室、301教室、304教室	担当者	各ホーム担任・副主任
項 目	調べ学習③(模造紙作成)		
主 題	調べ学習①・②のまとめ		
本時の目標	前時までの活動内容を模造紙にまとめることで、情報のまとめ方を考えて実践する。		
資 料	続産ファイル → ホーム主任の先生が準備 模造紙 1/2、マジックペン、模造紙記入例 → 運営部が準備		
時 間	指 導 内 容	留 意 事 項	
朝のSH	日程の確認	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教室掲示用の一覧で、各自の班の集合場所(添付資料Ⅷ)を確認させる ○ ホーム主任の先生は、続産ファイルを配布しておく ○ <u>筆記用具と続産ファイル、キャリアノートを持って、14:25には各教室へ移動</u>することを伝える 	
14:25~	筆記用具と続産ファイル、キャリアノートを持って、指定教室へ移動		
14:30~	1. 本時の内容の説明〔約5分〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 出欠確認 ・ 作業手順を説明する <ul style="list-style-type: none"> ① 模造紙の作成の仕方 ② 発表のルール・注意点 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 班長を中心に協力して作業するように指導する ○ 各班に模造紙、マジックペン、模造紙記入例を配布する ○ 作成に関して、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉛筆で下書きをさせる → 担当教員が確認する ・ ペン書き部を修正する場合は上に白い紙を貼り付ける ○ 5分間発表できるように指導をする ○ 前回までに調べた内容を出し合っ て、まとめていく 	
14:35~ 15:20	2. 模造紙作成〔約45分間〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループ内でうまく進行できてい 	

	① 個人で記入したワークシートをグループで話し合い、内容を模造紙にまとめる [まとめ方は記入例を活用させる] ② 模造紙が仕上がった班は発表の準備をする	ない場合は、教員が手助けをして意見交換、まとめができるようにする ○ 模造紙のまとめ方は記入例を配布して説明する
16:15～ 16:20	※7限 LH も引き続き行う ○ 次回の予告 9月17日(木) 『調べ学習④(発表)』〔視聴覚室〕	

班 (2年 H 番 氏名)

2020/9/10

続・産業社会と人間 調べ学習③(模造紙作成)

下の1.～4.の項目は必ず記入してください。自分たちで新たに項目を増やしてもかまいません。

(まとめ方の例)

調査テーマ：〇〇について		〇班 メンバー：〇〇 △△ □□	
1. 〇〇とは ※ 図表やイラストを効果的に使って、分かりやすく、詳しく記す	3. 〇〇をPR (〇〇のために自分たちにできること)		
2. 〇〇と室戸の関係について	4.まとめ (〇〇の課題・感想など)		

・令和2年9月17日 【調べ学習④】

「続・産業社会と人間」学習計画案

日 時	9月17日(木) 6限	形 式	発表
場 所	視聴覚室	担当者	各ホーム担任・副主任
項 目	調べ学習④		
主 題	調べ学習のまとめ・発表		
本時の目標	発表を通して、まとめ方や発表の仕方を学ぶ。		
資 料	続産ファイル → ホーム主任の先生が準備 模造紙 → 運営部が準備		
時 間	指 導 内 容	留 意 事 項	
朝のSH	日程の確認	○ ホーム主任の先生は、続産ファイルを配布しておく ○ <u>筆記用具と続産ファイル、キャリアノートを持って、14:25には視聴覚室へ移動</u> することを伝える	
14:25～	筆記用具と続産ファイル、キャリアノートを持って、視聴覚室へ移動		
14:30～	1. 本時の内容の説明〔約5分〕 ・ 出欠確認 ・ 座席の確認(班ごとに着席) ・ 発表のルールを再確認 ・ 評価表(添付資料)を配布して説明 2. 発表〔約40分間〕 ① 1班A → 1班B → 2班A → … ② 発表時間は各グループ5分程度	○ 班長を中心に <u>全員が協力する</u> ように指導する ○ 発表は、全員が前に出てマイクを使って行うことを伝える ○ 発表時間が余れば質問や感想がないか確認させる ○ 評価表は全て埋めなくても良い(司会教員が適宜指示する)	
～15:20	3. 次回の予告 10月1日(木) 『課題研究①』		

令和2年度 続・産業社会と人間 調べ学習④模造紙発表 評価表

各班の発表を聴きながら、下の各項目についてあてはまるものに○印をつけてください。
発表を聴いた後、右側の1.～4.項目について簡単に記入してください。

班番号:	1班 - A	カテゴリー: 自然	発表順:	番
発表テーマ内容:				

【評価1】

項 目	A: 良い	B: ふつう	C: もう少し
発表時間	A 4分～5分	B 3分～4分	C 3分未満
声量・速度	A	B	C
発表態度	A	B	C
発表内容	A	B	C
質問への答え方	A	B	C
服装・身だしなみ	A	B	C
総合評価	A	B	C

※総合評価は発表全体を通しての評価をしてください。

【評価2】

1. 良かった点

 2. 発表を聴いて、感じたことや意見

 3. 改善や工夫が必要な点

各班の発表を聴きながら、下の各項目についてあてはまるものに○印をつけてください。
発表を聴いた後、右側の1.～4.項目について簡単に記入してください。

班番号:	1班 - B	カテゴリー: 自然	発表順:	番
発表テーマ内容:				

【評価1】

項 目	A: 良い	B: ふつう	C: もう少し
発表時間	A 4分～5分	B 3分～4分	C 3分未満
声量・速度	A	B	C
発表態度	A	B	C
発表内容	A	B	C
質問への答え方	A	B	C
服装・身だしなみ	A	B	C
総合評価	A	B	C

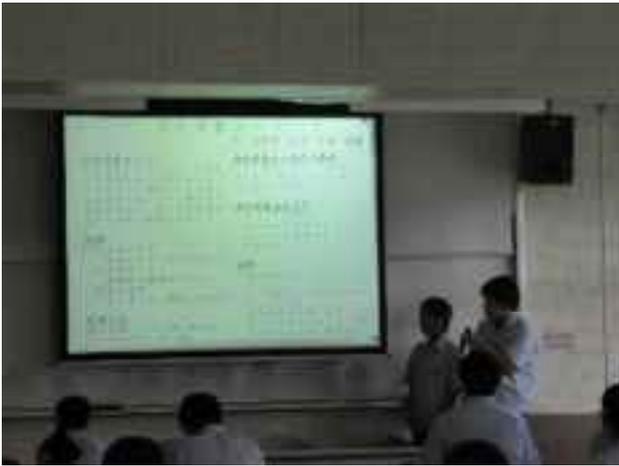
※総合評価は発表全体を通しての評価をしてください。

【評価2】

1. 良かった点

 2. 発表を聴いて、感じたことや意見

 3. 改善や工夫が必要な点



・令和2年11月5日 【室戸市企業見学】

室戸市役所による若年層労働力の室戸市外流出対策の一環として、室戸高校1・2年次生に地元企業の活動や室戸市の産業の魅力等を知ってもらい、地元企業・資源の理解を促進させ、地元就職または、Uターン等の助力にすることを目的に、実施した。

見学先：3コース

【Aコース：吉良川町・羽根町】

富士鍛工株式会社 室戸工場 ～ 株式会社山崎機械製作所 室戸工場

【Bコース：室戸岬町】

アクアファーム ～ 室戸海洋深層水株式会社 ～ 赤穂化成株式会社 深層水事業所

【Cコース：室津周辺】

室戸市役所 ～ MUROTObase55 ～ 藍染事業



見学後は2時間の事後学習時間を確保し、それぞれが感じたことや今後の進路選択に役立つこと等についてのまとめを行った。

「続・産業社会と人間」学習計画案

日 時	11月12日(木) 6限目 11月26日(木) 6限目	形 式	作業
場 所	各ホーム教室	担 当 者	ホーム主任
項 目	室戸市内企業見学事後学習①、② (「室戸市内企業見学報告書」・「室戸市内企業見学について」の作成)		
主 題	室戸市内企業見学についての振り返り・まとめ		
本時の目標	室戸市内企業見学を振り返り、今後の進路実現に役立てさせる		
資 料	報告書、室戸市内企業見学について → 運営部が準備 続・産ファイル → ホーム主任が準備		
時 間	指 導 内 容	留 意 事 項	
導 入 (5分)	<p>① 本時の目標を説明する → (1) 室戸市内企業見学を通して学んだ内容を思い出し、報告書にまとめながら振り返る。 (2) 報告書を書き終えたら「室戸市内企業見学について」に企業見学についての内容を文章としてまとめる。 ※ 報告書は12月15日(火)に行う「課題研究最終発表会」での学年発表者の選考材料になることを伝える。</p>	<p>○ 企業からいただいたパンフレット等も活用する</p> <p>○ <u>課題研究発表会の発表者は学年で1名、発表時間は5分</u></p>	
展 開 (40分)	<p>② 見学内容を振り返りながら、報告書を作成させる</p> <p>③ 報告書が完成した生徒には、「室戸市内企業見学について」を作成させる</p>		
ま と め (5分)	<p>④ 次回の予告 11月26日(木) 6限目 室戸市内企業見学事後学習②</p>		

令和2年度 続・産業社会と人間「室戸市内企業見学」報告書

2年 H 番 氏名

室戸市内企業見学の時のメモやいただいたパンフレットを参考に、報告書の作成を行ってください。

日 時	令和2年 月 日 ()	
見学先 (企業名)	1社目:	
	2社目:	
企業紹介 (事業内容等 について)	1社目	_____

	2社目	_____

見学内容 (説明を受け た内容など)	1社目	_____

	2社目	_____

No. 2

企業見学を通しての気づきや学んだことについて	
見学に行く前の 企業に対する印象	<hr/> <hr/> <hr/>
見学してみて、おも しろいと感じたと ころ、興味深かった ところ	<hr/> <hr/> <hr/>
職場の方の話で 印象に残った言葉	<hr/> <hr/> <hr/>
仕事をするうえで、 大変そうだと感じ たところ	<hr/> <hr/> <hr/>
学校と違うと感じ たところ	<hr/> <hr/> <hr/>
自分の進路や高校 生活に活かそう なこと	<hr/> <hr/> <hr/>
将来、自分が就きたい職業について	
<hr/> <hr/>	
感想・目標（見学を終えての気持ちやこれからの高校生活の過ごし方について）	
<hr/> <hr/> <hr/>	

3 「課題研究」

(1) 概略

2年次（2単位）

総括：総合学科運営部 担当：各教科担当

(2) 目標

総合的・発展的な課題を生徒自らが設定し、個人またはグループによる継続的な学習を通して、自発的・創造的な学習態度や問題解決能力を養う。

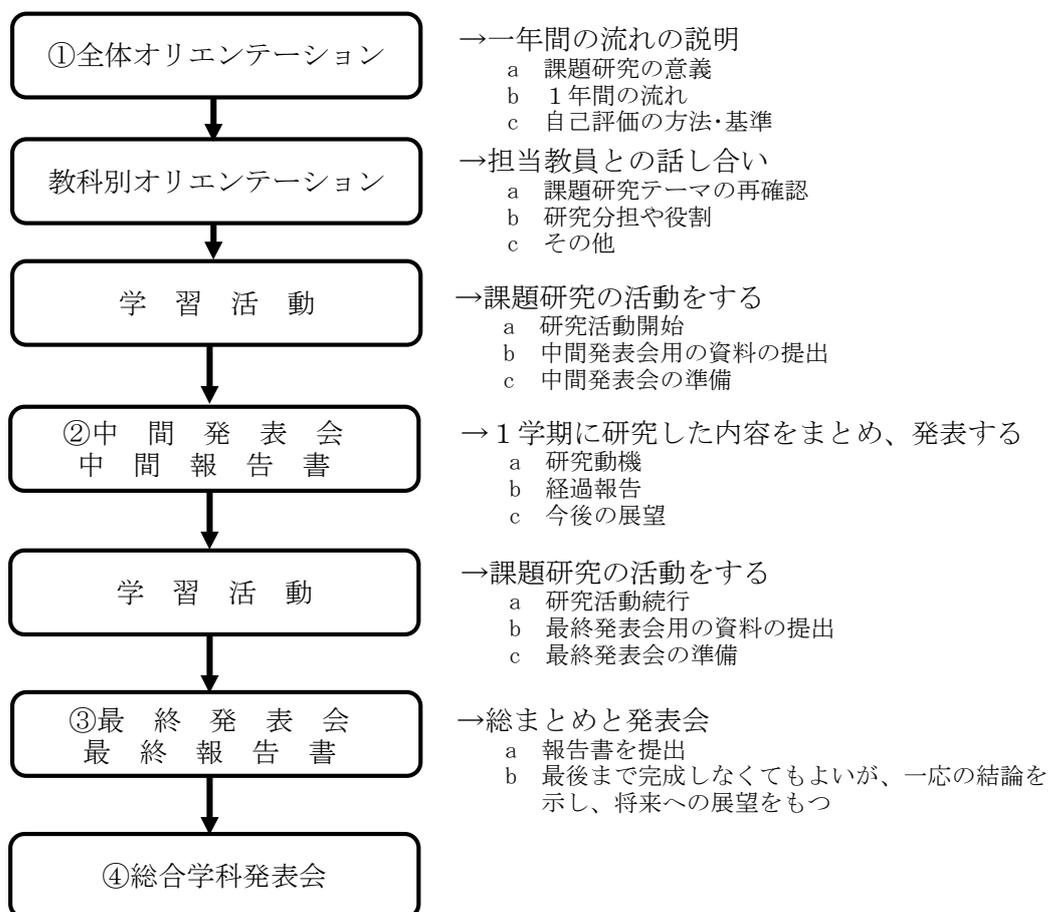
(3) 年間指導計画

回数	実施日		指導内容	時間数
1	4	9	「課題研究」についての全体オリエンテーション	1
			教科別ガイダンス	1
2	4	14	授業（テーマ別研究）	2
3	5	19	授業（テーマ別研究）	2
4	5	26	授業（テーマ別研究）	2
5	6	2	授業（テーマ別研究）	2
6	6	16	授業（テーマ別研究）※基礎力診断テスト	2
7	6	23	授業・中間報告書入力	2
8	6	30	授業・中間報告書入力	2
9	7	7	授業・中間報告書入力	2
10	7	21	授業・中間報告書提出	2
11	7	28	授業（テーマ別研究）	2
12	8	25	授業・中間報告書訂正・中間発表会準備	2
13	9	1	中間発表会	2
14	9	8	授業（テーマ別研究）	2
15	9	15	授業（テーマ別研究）	2
16	9	29	授業（テーマ別研究）	2
17	10	6	授業（テーマ別研究）	2
18	10	13	授業（テーマ別研究）	2
19	10	27	プレゼン講習会・授業	2
20	11	10	授業（テーマ別研究）	2
21	11	17	授業・最終発表会資料作成①	2

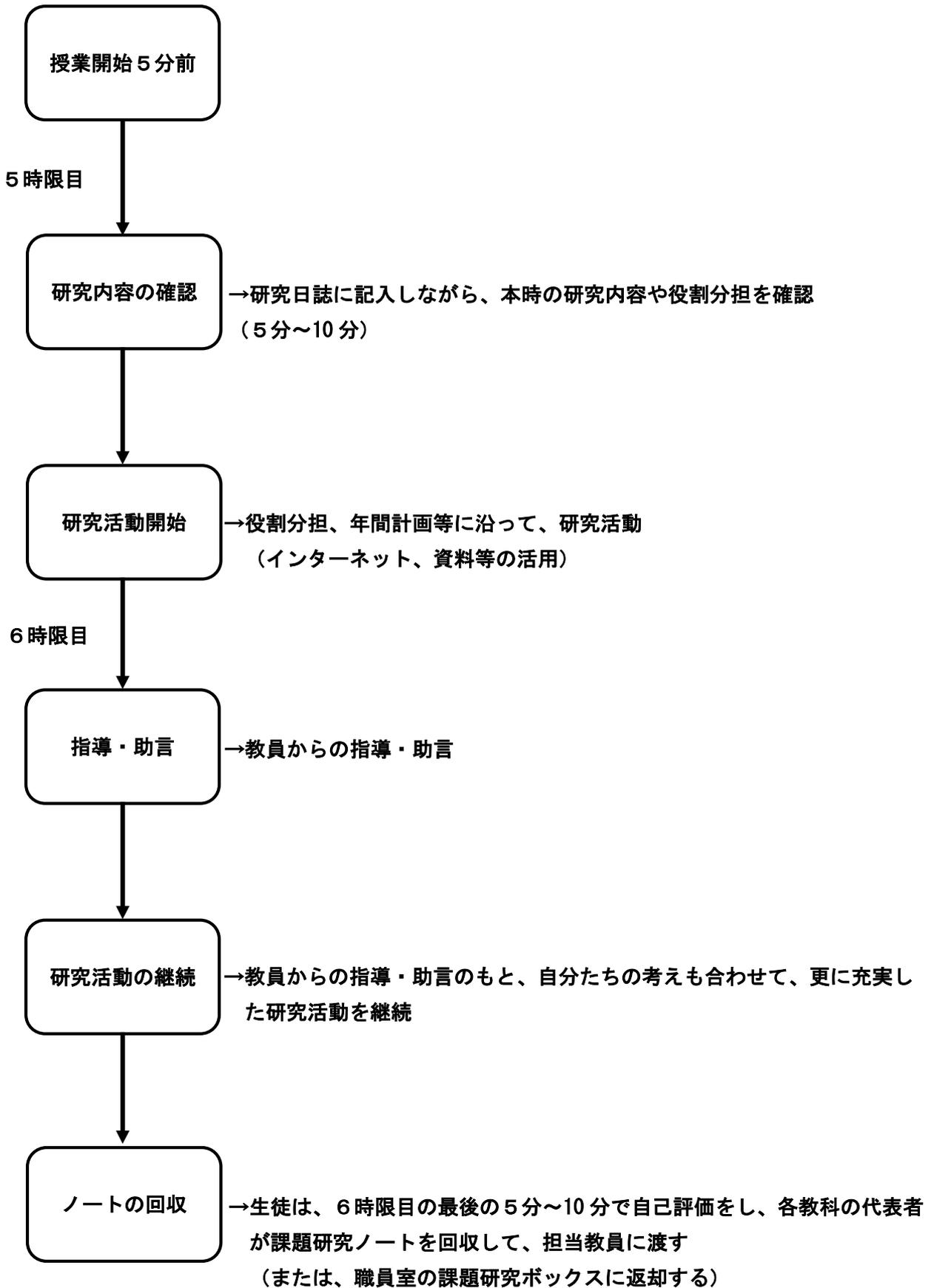
22	11	24	授業・最終発表会資料作成②	2
23	21	1	最終発表会周知会・最終発表会資料提出	2
24	12	14	最終発表会リハーサル	1
25	12	14	最終発表会リハーサル	1
26	12	14	最終発表会リハーサル	1
27	12	14	最終発表会リハーサル	1
28	12	14	最終発表会リハーサル	1
29	12	14	最終発表会リハーサル	1
30	12	22	授業・最終報告書作成	2
31	1	12	授業・最終報告書提出	2
32	1	19	最終報告書訂正・在校生へのメッセージ入力	2
33	1	26	年間のまとめ・報告書の製本	2

(4) 年間の流れと授業の流れ

年間の流れ



授業の流れ



(5) 研究日誌

課題研究 (研究日誌) ー

令和 年 月 日 曜日 [天気:]

【1】本日の研究目標 (メンバーや担当教員と話し合い、研究活動前に記入)

【2】メモ

【3】まとめ (研究活動後に記入)

1. 本日の研究内容

2. 自己評価

(1) 授業前の準備はできましたか。 5・4・3・2・1

(2) 真面目(積極的)に研究ができましたか。 5・4・3・2・1

(3) 計画通りに研究(制作)が進みましたか。 5・4・3・2・1

(4) 今日の研究成果はありましたか。 5・4・3・2・1

(5) 「 」(自分で考えて書こう) 5・4・3・2・1

3. 成果と課題

/25点

4. 反省点 (今日の研究に関する感想など)

5. 次回の計画

【4】教員からのコメント

検印

(6) 課題研究の内容

地域振興にかかわるテーマを選択した生徒は、48%であった。生徒の興味関心のあ
る分野は、幅広いが、自分たちが考えていることは、何につながるのかを考えさせた
い。地域振興、課題解決につながるテーマを生徒が選択する割合を60%程度にした
い。

高知県立室戸高等学校		
令和2年度 科目「課題研究」(3年次・2単位) 実施概要報告書		
課題研究のテーマ	人数	備考(成果・今後の課題等)
スポーツによる地 域・経済の活性化 について	1	スポーツの持つ力により室戸地域の活性化をはかりたいという動機から研究に取り組んだ。自ら企画立案し、可能であれば実施することまで想定していたが、コロナ禍により先行事例の研究も十分にできないままとなった。方針転換に苦労したが、限られた聞き取り調査の結果を活かし、室戸高校と地元の活性化を結び付けるイベントを立案することはできた。卒業後も室戸に関わりたいとの意思があることから、今後実践に移していくことを期待する。
室戸市のまちづく りを考える～人口 減少対策について ～	1	室戸市が抱える課題の解決に寄与したいとの動機から研究に取り組んだ。人口減少の原因のなかでも、特に高校進学時の人口流出が多いことに着目し、室戸高校への入学希望者増を目標とした。室戸市内外の中学生に室戸高校の魅力を伝えるため、実際に中学校での学校説明会に参加し、学校説明を行うなど精力的に取り組み、説明会後のアンケートでは入学希望者を増やすことができた。準備不足で発表に使用する資料が少なく、口頭での説明が多かったことが反省材料である。
数学で自分を変え る	1	得意な数学を通して分かりやすく伝える力を身につけたいという目的のもと活動した。学年を問わず、数学の授業の実践と検証を繰り返して行い、改善を図った。相手の方を見て説明することに苦戦したが、授業や発表に向けた準備はできるようになった。想定外の質問や解答があった場合に困惑していた。
卓球の技術向上	1	室戸市の卓球人口を増やしたいという想いと、自身の動画編集スキルを向上させたいという想いからこのテーマについて取り組んだ。内容としては中学校との交流を念頭におき、アンケート調査や動画の撮影・編集に取り組んだ。動画の作成では見せ方を工夫して、訪問先の中学生に卓球の奥深さを伝えることができた。また、技術指導なども行うことによって中学生の卓球への意欲の向上がアンケートの結果から確認できた。
地震の対策につい て	1	近年必ず起こると言われている南海トラフ地震に備えようと思ったことがきっかけで研究に取り組んだ。今までの経験から、調べた内容の発表はよく目にするが、実践した報告は見たことがなかったので、地震対策を実践して検証することを目的とした。内容としては、事後対策を主に取り扱い、「避難経路の撮影」、「教室を段ボールで埋め尽くす」、「もやい結びの結び目の強度」の3テーマを検証した。自分自身で体験することによって、地震の対策についてより深い理解を獲得することができた。
室戸高校の魅力を 英語で発信	1	英語で室戸高校の魅力を伝えようと、学校行事を中心に紹介スライドおよび原稿を作成した。在校生やホストファミリーへの聞き取りを行い、他国との文化の違いを意識しながら、相手により分かりやすく興味を持ってもらえる説明になるよう工夫することができた。コロナ禍により、外国人への発表機会は本校ALTのみとなってしまったが、今後オンラインでも国際交流が活発になることが予想される本校において、在校生による活用と改善が期待できる。

幼児英語教育について	1	保育士を目指す生徒が、幼児をとりまく英語教育の現状について興味を持ち、研究を進めた。公立・私立幼稚園（保育園）での英語教育の実施状況や保育士の英語教育に対する意識について調査を行い、地方の公立幼稚園（保育園）における英語教育の普及に向けて、自分なりの考えを持つことができた。保育園での英語活動実習では、子どもたちの発達に応じた活動内容、指導方法の重要性に気づき、大学で発達や心理について学ぶという新たな目標設定につながった。
運動能力向上～スポーツテストオール10を目指して～	1	身体運動を伴う職種へ進むにあたり、効率の良い運動能力向上の為のプログラムの作成・実践を通じて、身体能力・体力の向上に関する理解を深めることができた。研究成果を判断するための指標として「新体力テスト」を選定し、自らの弱点や今後の課題などについても見通しを立て、計画的・前向きに1年間研究に取り組むことができた。今後もこの研究内容を基盤とし、自らの健康課題や体力と向き合い、運動を計画・実践していくことを期待する。
運動能力の向上について	1	卓球の技能向上のためのトレーニングメニューを作成し、自らの競技力向上を図り、今後も卓球に親しんでいくことや部活動の活性化に寄与することを目的に研究に取り組んだ。技術的なトレーニングだけでなく、基礎体力の強化に着目し、自らが被験者となることで、競技性に合わせた内容にするための工夫を施した。コロナ禍の影響もあり、対外試合などの戦績による実証が行えなかった。数値的データなどを基に研究成果を実証することが今後の課題である。
ブライダルについて	1	将来の目標であるブライダルスタイリストになるための知識や技術を学ぶため、積極的に研究に取り組むことができた。結婚の歴史に始まり、コロナ禍でのブライダルが今までとどのように変化したのか、また、中止や延期を余儀なくされた結婚式がどれくらいあったのかを調べた。そのことから、今後自分がブライダルスタイリストになった時に、どのようなサポートができるのかということを考えることができた。また、色合いや形状、大きさなどを工夫して、ドレスに合う髪飾りを自作し、実際につけてみるなど、技能向上にも努めた。
7才でも分かるジオパーク教育ツールの開発	1	将来の目標である保育士になったとき、既製のおもちゃや絵本などばかりを使用するのではなく、自作したツールを使いたいという思いと、室戸にあるジオパークを子どもたちに分かりやすく伝えることをポイントに考える中で、紙芝居を作ることになった。ジオパークを未就学児に伝えるには、話のテーマがとても難しく、紙芝居自体の制作までに時間がかかってしまった。未就学児にどれくらい伝わるかを確認するため、保育園に読み聞かせに行くという目標は達成できなかったが、教育ツールを自作することの大切さを知ることができた。
ジオパークのテーマソングを作る	1	音楽を使って、室戸市の魅力や、室戸高校生の取り組みを多くの人に知ってもらいたいという動機からこのテーマを設定した。自分のイメージした楽曲に仕上げられるよう、音楽理論を学びながら作曲を行った。出来上がった楽曲を音源化し、室戸市の自然風景の映像とともに本校のFacebook アカウントにて外部に発信することができた。コメント機能等で閲覧者の反応も確認することができ、一定の宣伝効果を感じる事ができた。
バランスのとれた食事について	1	高校生にバランスのとれた食事の提案をしたいという動機からこの研究に取り組んだ。クラスの昼食の実態調査をしたり、全校生徒を対象にアンケート調査を実施したりして、野菜・果物が不足しているという課題を見つけることができた。野菜・果物を補うためのレシピ集の作成を計画していたが、間に合わず完成に至らなかった。研究を進める中で、情報を関連付けるなどして課題を把握し、解決に向けた手立てを考えることができた。
高齢者施設でのレクリエーションについて	1	介護士になりたいという夢を持っており、レクリエーションを考え、実践してみたいという動機から研究に取り組んだ。身体機能と脳の活性化の向上をはかったレクリエーション計画を立て、施設実習で実践した。実践後にアンケート調査を行い、成果と課題を把握することができた。また、介護者からのアドバイスや利用者の要望を参考に、2回目のレクリエーションの計画を立て、実践することができた。

土佐備長炭について	1	地元で備長炭の生産が行われ、かつ両親もその生産に携わっていることから、さらなる発展を期待する思いで研究を開始した。まず在校生が備長炭について知っているのかアンケートを実施して確認した。認知度は高かったが燃料として使われている以外は、どのような使い方や使われ方がされているのかを知らない生徒が多かった。そこで、魅力や特徴を知ってもらうことで身近なものとして使ってもらえるように努めた。
人と犬と猫の関係性	1	2年次に学校周辺の野生動物を固定カメラを使って調査したのをきっかけとして、身近な存在の猫について研究した。主に人間との関わりにつまざる歴史について、「伝承」という形で今日まで語り継がれてきたことを紹介した。イラストなども使い工夫をした。
室戸のロードキルについて	1	日常的に目にする道路での動物の死骸に興味を持ち、どのような場所で、なぜ起こるのか、「ロードキル」の実態について調査した。市道・国道のデータを収集して分布図を作成し、起こりやすい場所を特定した。「なぜ」については助言を受けて、塩分との関係を知り、実際に塩を活用して動物が舐めに来るのか実験を行い結果を得た。本人なりの結論が得られたが、それをどのように予防策や対策に結び付けていくのかといった具体案については今後の課題となった。
災害時にだれでも使いやすいトイレ	1	「地域に関連する研究」という視点を持ち、だれでも使いやすいトイレの実現を目指した。日頃の専門教科の学びを生かしつつ、調査、設計、製作を行う中で新たな知識・技能の習得にもつながった。トイレに設置する手すり、消臭剤、凝固剤を製作し、目標の実現には近づいたが、実際に複数の人に使用してもらうなど利用者の視点も踏まえた改良等には至らなかった。年間を通じて、計画の大切さと何かを成し遂げることの大変さを感じることができた。

(7) 課題研究最終発表会

- ・日 時：令和2年12月15日
- ・場 所：室戸高等学校 多目的ホール
- ・ねらい：課題研究で1年間研究した内容を発表することで、まとめる力、発表する力を身につけ、総合学科の総まとめを行う。また、生徒の発表を聴くことで、聴く力を身につけることを目的としている。

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、令和3年2月4日に予定していた「第20回総合学科発表会」を中止とした。



(8) 評価方法

〔1〕これまでの研究状態について

	評価の視点	評価
計画	① 自主的に計画が立てられたか	5・4・3・2・1
	② 計画にムダ・ムリ・ムラがなかったか	5・4・3・2・1
	③ 準備はきちんとできていたか	5・4・3・2・1
実施	① 計画通りに学習が進められたか	5・4・3・2・1
	② 積極的に学習ができたか	5・4・3・2・1
	③ 自分なりに工夫し、意欲的に取り組めたか	5・4・3・2・1
	④ 学習内容はよくわかったか	5・4・3・2・1
	⑤ ノートや記録をきちんと整理できたか	5・4・3・2・1
	⑥ グループのメンバーと協力できたか	5・4・3・2・1
合計	「計画」と「実施」の合計点	／45点

〔2〕これまでの自己評価の平均点を書こう。

／25点

〔3〕担当教員の評価

	評価の視点	評価
研究状態	① 遅刻はありませんか	5・4・3・2・1
	② 無断欠席はありませんか	5・4・3・2・1
	③ 研究に熱心に取り組んでいますか	5・4・3・2・1
	④ 計画通りに研究が進んでいますか（遅れていませんか）	5・4・3・2・1
	⑤ 他の生徒との協力がとれていますか	5・4・3・2・1
	⑥ 研究に必要な準備をしていますか	5・4・3・2・1
合計点		／30点

〔4〕〔1〕～〔3〕の合計点を記入し、総合評価をしなさい。

	〔1〕研究状態	〔2〕自己評価	〔3〕教員評価	合計点
得点				／100点

〔5〕コメント(頑張った点や成果、反省点など具体的に書こう)

--

4 「ジオパーク学」

(1) 概略

(学校設定科目) 2年次(2単位) 選択

担当: 理科、商業、地歴・公民科教員

※各生徒個人に室戸ジオパーク推進協議会専門員3名が研究支援者として指導

(2) 目標

世界ジオパークや自然、歴史・文化遺産、地場産業について学び、その資源を最大限活用することによる地域の活性化についての方法を学ぶ。地域を調査・観察する力、資源の活用方法を企画する力、企画したものを社会に伝えるプレゼンテーションの力を取得できるようにする。

(3) 年間指導計画

学期	月	日	回	学習形態	学習内容		時間
一学期	4	4/13	1	学習	オリエンテーション1	ジオパーク全般について	2
	5	5/11	2	学習	ジオパーク活用事前学習1	ジオパークを活かした取組み例を学ぶ	2
		5/18	3	学習	ジオパーク活用事前学習2	ジオパークを活かした取組み例を学ぶ	2
		5/25	4	学習	ジオパーク活用事前学習3	テーマ設定 ・ グループ活動	2
	6	6/1	5	活動	ジオパーク活用事前学習4	テーマ設定 ・ グループ活動	2
		6/15	6	活動	ジオパーク活用事前学習5	テーマ設定 ・ グループ活動	2
		6/22	7	活動	テーマ別ジオパーク活用6	グループ活動	2
		6/29	8	活動	テーマ別ジオパーク活用7	グループ活動	2
	7	7/6	9	活動	テーマ別ジオパーク活用8	グループ活動	2
		7/20	10	活動	構想発表	グループ活動	2
二学期	8	8/24	11	活動	テーマ別ジオパーク活用9	グループ活動	2
		8/31	11	活動	テーマ別ジオパーク活用10	グループ活動	2
	9	9/7	12	活動	テーマ別ジオパーク活用11	グループ活動	2

		9/14	13	活動	テーマ別ジオパーク活用 12	グループ活動	2
	10	10/5	14	活動	テーマ別ジオパーク活用 13	グループ活動	2
		10/12	15	活動	テーマ別ジオパーク活用 14	グループ活動	2
		10/19	16	活動	テーマ別ジオパーク活用 15	グループ活動	2
		10/26	17	活動	テーマ別ジオパーク活用 16	グループ活動	2
		11/9	18	活動	中間発表	グループ活動	2
	11	11/16	19	活動	テーマ別ジオパーク活用 17	グループ活動	2
		11/30	20	活動	テーマ別ジオパーク活用 18	グループ活動	2
		12/14	21	活動	テーマ別ジオパーク活用 19	グループ活動	2
	12	12/21	22	活動	テーマ別ジオパーク活用 20	グループ活動	2
三 学 期		1	1/18	23	活動	テーマ別ジオパーク活用 21	プラン内容の確認や実践に向けての練習
	1/25		24	活動	テーマ別ジオパーク活用 22	プラン内容の確認や実践に向けての練習	2
	2	2/1	25	活動	テーマ別ジオパーク活用 23	プラン内容の確認や実践に向けての練習	2
		2/8	26	活動	テーマ別ジオパーク活用 24	プラン内容の確認や実践に向けての練習	2
		2/15	27	活動	ジオパーク活用の発表 25	プランの実践	2
		2/22	28	活動	ジオパーク活用事後学習 26	プラン作成から実践までの振り返り・1年間の学習内容の振り返り	2

評 価 規 準	関心・意欲・態度	室戸の自然や歴史・文化等に対して関心や探究心をもち、科学的態度を身に付け、意欲的に探究しようとするとともに、地域の活性化や環境保全に関わろうとしている。
	思考・判断・表現	室戸地域に関する課題を見出し、ジオパークの活動を通して地域の活性化や環境保全について考察し、導き出す過程や考えを適切に表現している。
	技能	室戸地域に関する調査や観察または資料から得た情報を収集・選択して読み取ったり、図表や作品などにまとめたり技能を身に付けている。
	知識・理解	室戸の自然や歴史・文化等地域に関する基礎的・基本的な原理や事柄を理解し、知識を身に付けている。

(4) 室戸高校「ジオパークの活用」発表会

令和3年2月15日 室戸高等学校 視聴覚室

発表テーマ

- ① 災害時避難所運営に高校生も関わることができるのではないか
- ② 室戸高校の音楽部はなぜ軽音祭冬の陣で優勝できたのか
- ③ 女性が子育てと仕事をしながら満足に自分の時間を持つためにはどうしたらいいか
- ④ 室戸の風が強いのはなぜ
- ⑤ 室戸郵便局～椎名郵便局までのガイドブック作り
- ⑥ 室戸市と徳島県三好市の集客力の違いについて
- ⑦ 効率よく筋肉をつけるには？
- ⑧ 室戸の日光ならUVレジン早く固まる
- ⑨ なぜゲームをしている人が多いのか



【室戸高校「ジオパークの活用」 発表会アンケート：生徒】

○発表会は良かったですか？楽しめましたか？（会場なども含めて全体として）

そう思う（5） 少しそう思う（3） あまり思わない（1） 思わない

- ・もっと時間をかけて研究をすればよかった。
- ・楽しめたかはよくわからないが、見やすかったしスムーズに進んでよかったと思う。
- ・色々なテーマがあって知ることがたくさんあった。
- ・みんなの発表したい内容でできたのはとてもいいと思った。
- ・自分たちの発表があまり良くできず、緊張しました。
- ・興味が出てくるような発表があった。
- ・みんなよい発表でよかった。いつもよりやりやすかった。
- ・どの発表も知らないことや難しそうなことをしているのに、きちんとまとめられていてすごいと思った。
- ・写真を多く使っている人がいて、見ていて楽しかった。

○発表会の内容・説明は分かりやすかったですか？

そう思う（6） 少しそう思う（2） あまり思わない 思わない（1）

- ・飛びまくっていた。
- ・わかりやすかった。
- ・グラフや表など、スライドの作り方などが良かった。発表の仕方も聞きやすかった。
- ・少し声が小さい人もいたけど、みんな熱心に発表できていた。
- ・他の人たちの発表は聴いていてわかりやすく、次のことも考えてすごいと思った。
- ・声もしっかり聞こえて、パワーポイントも見やすかった。
- ・わかりやすく聞き取りやすかった。スライドもすごく見やすかった。
- ・どの発表も表や図、写真がありわかりやすかった。
- ・難しい内容があり、説明を聞いてもあまりピンとこないものがあった。

○それぞれの研究についての感想は？

① 災害時避難所運営に高校生も関わることができるのではないか

- ・聞きやすかったが、内容が難しかった。
- ・中間発表より全然よくなっている気がした。
- ・調べるだけでなく、自分たちができる具体的な内容があって、聞きやすかった。スライドの文字がとても見やすい。
- ・ゲームを通して防災の意識を高めていたのが良いと思った。
- ・生徒と教師両方とも避難意識が低いと分かりました。
- ・いろいろな考えを出して、研究できていてとてもすごかった。発表が聞きやすかった。
- ・最初の目標ができないと分かってから、他にできることを探せていてすごいと思いました。
- ・1年間やってきたことのスライドが変わるのが早くてよくわからなかった。

② 室戸高校の音楽部はなぜ軽音祭冬の陣で優勝できたのか

- ・自分なりの分析をしっかりできていたけど、少し足りないところを感じた。でも、次に向けてどうすれば勝てるか考えていたので、優勝してほしい。
- ・身近な仮説を立てていて、評価基準などいろんな人に聞いた結果があって、内容がはっきりしていて良かった。クイズもあって工夫がされていた。
- ・クイズ形式があって面白い発表だと思いました。
- ・バンドには歌声やメロディーだけじゃなく、世界観も必要であると分かった。
- ・いろいろなことを聞いていて、わかりやすかった。
- ・雰囲気や世界観も大事なんだと驚きました。歌は難しいんだなと思いました。
- ・クイズ形式で面白いと思った。早口でよく聞きとれないところがあった。
- ・クイズ形式にしていたところが面白かった。

③ 女性が子育てと仕事をしながら満足に自分の時間を持つためにはどうしたらいいか

- ・聞き取りとかもできていたので良かった。
- ・円グラフは写真よりエクセルの方が見やすかった。将来に生かせるテーマが良かった。
- ・家族以外でもサービスを受けられるということを知った。
- ・自分の時間をつくるには家族や他のサポートも必要である。
- ・円グラフなどを使っていて見やすかった。
- ・家庭内での協力が必要だと思いました。無理しすぎないほうがいいんだと思いました。
- ・きれいにまとめられていてわかりやすかった。
- ・円グラフが少し見づらかった。テーマに興味があったので、聞いていて面白かった。

④ 室戸の風が強いのはなぜ？

- ・風が強いとか考えたことがなかった。
- ・字はすごく見やすかった。発表が難しすぎてよくわからなかった。
- ・言葉の説明があってわかりやすかった。また計測結果の表も見やすくて良かった。
- ・風が強い原因をもう少し説明してほしい。
- ・風の強さが地形によって変わるのが驚きました。
- ・データがきちんとまとめられていてわかりやすかった。
- ・グラフなどを使っていて、見やすかった。

⑤ 室戸郵便局～椎名郵便局までのガイドブック作り

- ・ガイドブックを見たいと思った。
- ・アンケート結果が好評ですごいと思った。私もガイドブックが見てみたい。
- ・知っている人が多い場所よりもあまり知られていない場所の紹介だったので、工夫があった。アンケート結果のポイントがわかりやすい。
- ・説明がわかりやすく、ガイドブックを読みたいと思った。
- ・ガイドブックとして足りないところも良い部分も教えてもらい良かった。
- ・しっかりとした内容でガイドブックができていて良いと思った。

- ・ガイドブックを作るのは難しいんだなと思いました。
- ・ガイドブックの一部をもっとゆっくり見たかった。

⑥ 室戸市と徳島県三好市の集客力の違いについて

- ・違いが分かった。
- ・ものすごくわかりやすく、写真も多かったので楽しく見れた。私も三好市に行ってみたくなった。
- ・説明の仕方がスムーズで、写真のエピソードが良かった。観光の特徴など、具体的なものが多く内容がすごく良かった。
- ・室戸市の今後を考えることができる良い発表でした。
- ・室戸市と三好市では、市全体で室戸は協力できていないことがわかりました。
- ・違いを出し、比べて説明していてわかりやすかった。
- ・市全体でPRすることが大事。
- ・写真や自分の感想があり、わかりやすかった。
- ・実際に体験しての感想があり、良かった。写真が多く、見ていて楽しかった。

⑦ 効率よく筋肉をつけるには？

- ・足が速くなっておもしろかった。
- ・検証がうまくいかなかった理由が、適切に考えられていた。
- ・言葉の説明に図があってわかりやすい。検証がうまくいかなかった振り返りができていて良かった。
- ・筋肉をつけるためにお寺を使い、少しだけ速くなったという実験が良かった。
- ・筋肉をつける際に失敗したことを次どのようしたらよいか考えていて良かった。
- ・面白い仮説で興味があり、聞いていて楽しかった。
- ・なぜうまくいかなかったかまであって良かったと思う。
- ・筋肉の場所を写真を使っていて、わかりやすかった。

⑧ 室戸の日光ならUVレジン早く固まる

- ・今度何か作ろうと思いました。
- ・多分という言葉がすごく微妙に感じられた。コスパのところは要らない気がする。
- ・実験結果の項目が詳しく書けていて、比較するレジンも多く、良いと思った。
- ・もう少し質問の回答の質をあげれば良かった。
- ・いくつかの種類が紹介され、一番のおすすめがわかりやすい説明であった。
- ・自分の考えを入れて発表していて良かったと思う。
- ・レジンが光によって固まる速さが変わって面白かった。
- ・太陽光とライトでは、なぜ太陽光の方が良いと思ったのかがわからない。
- ・UVライトでの固まる時間がなかったから、太陽光の方が早く固まるとは言い切れないと思った。

⑨ なぜゲームをしている人が多いのか

- ・最近のわかるゲームがあった。
- ・しっかりと分析できていたけど、足りないところも多かった。
- ・どんなゲームが人気なのか理由がたくさんあって良かった。
- ・わかりやすい説明だった。
- ・それぞれのゲームの特徴を言ってくれたと思った。
- ・自分がしていないゲームがあったので、やってみたいと思った。
- ・オクトパストラベラーが面白そうなのでやってみたいと思った。
- ・室戸とどう関わるのかがわからなかった。紹介したゲームの違いが知りたかった。
- ・アニメーションが使われていて良かった。

○ 「ジオパークの活用」本当はこうしたかった、こうすれば良かったと思うことは？

- ・自分に合った研究を早めに見つける。
- ・もっとしっかり1つのことについて、集中すればよかった。
- ・仮説を立てていたが、考え方や何を調べたらよいかとても悩むことが多くて、文章がうまくまとまらない事が多かった。
- ・スライドに自分が製作したレジンアクセサリ一撮って載せればよかった。
- ・もう少し測る場所を増やした方が良かった。
- ・もっと早く実験道具の切り替えをしたらよかった。パワーポイントをつくるのに、もっと時間を使うべきだった。
- ・もっとしっかり検証できるようにしたかった。
- ・計画をもっとちゃんと立てて、人に話を聞きに行ったりしたかった。
- ・1日避難所訓練やもっと規模を大きくしたHUGゲームができたらよかったと思う。

○ 「ジオパークの活用」の取組をしてみて、思い、考えが変化した点はなんですか？

- ・難しい研究だとやりやすく、できると思ったけど案外難しかった。
- ・仮説を立てて調べることの難しさがわかった。もっと深く調べたり、知りたいことが増えた。
- ・レジン製作をもっとしてみたくなった。
- ・風が強くなるには地形だけではなく、他にもたくさん原因があると思った。
- ・先のことを考えて計画を立てるべきだと思った。研究をするときはいろいろな可能性を見つけるべきだと思った。
- ・仮説の立て方が重要だと思った。
- ・知っていたつもりでも、調べてみると新しい発見があり楽しかった。
- ・もっとジオパークについて知りたいと思うようになった。

○ 来年度の選択生に研究活動をする上でのアドバイスは？

- ・早めに取り組む。
- ・かたい内容は難しくなりすぎるし、続かないのでやめるべき。

- ・仮説の立て方や内容について深く調べること。
- ・仮説を立てるのは1学期中にした方が良い。仮説を立てるのに苦戦したら、「自分の好きなもの・趣味」で考えてみると良い。
- ・現実的かつ意欲的に活動できる仮説を立てるべき。
- ・仮説と検証内容はしっかり考える。
- ・計画をしっかり立てて行動しないと、ギリギリになってしまう。
- ・自分が興味のあるテーマを選ぶこと。

第 1 章 研究開発の実施報告

Ⅲ 国際交流活動

Ⅲ 国際交流活動

1 ランカウイユネスコ世界ジオパークとの交流

(1) 概略

昨年度のランカウイ訪問の際に交流のあった高校が長期にわたり休校をしているという状況の中、高校生同士の交流を行うことができなかった。ランカウイユネスコ世界ジオパーク職員とのやりとりはSNSやEメールを通して継続している。今年度はランカウイジオパークから提供された「マングローブ植え付け指導ビデオ」に3年次生2名が日本語字幕を付け、本校公式Facebookで公開した。

マングローブの林は「生命のゆりかご」とも呼ばれ、周辺に住む動植物を育てているが、近年水質汚染や伐採による環境破壊が心配されている。そういった破壊は日本のエビ養殖とも密接な関係があるなど、ESDの視点からマングローブの植林の重要性を学ぶ良い機会になった。

(2) Facebook に投稿した記事

ランカウイジオパークから届いた「マングローブの植え方動画」に字幕を付けました。我々、英語一般bを選択した3年次生2人は、ランカウイユネスコ世界ジオパークから送っていただいたマングローブの動画に日本語字幕をつけました。私達は、マングローブがなぜ大事なのかを調べ、追及しました。マングローブの生態系は、「海の命のゆりかご」とも例えられるように、海の生物の生息場所や餌場、産卵場を提供するなど、沿岸域の海生生物と切っても切れない関係にあります。したがって、マングローブの生態系を保全することは、人々の暮らしを守ると同時に、たくさんの生物を保全することにも繋がります。

ですが、そのマングローブが地球温暖化などの環境破壊によって、徐々に減ってきています。ランカウイユネスコ世界ジオパークの方々には、マングローブの保護と環境保全を行っています。この活動を知り、私達にもできる事がないかと思い、この動画に日本語字幕をつけてSNSなどで発信しようと考えました。この動画が少しでも多くの人の目に留まり、注目され、環境保全に繋がっていただければ幸いです。



2 オーストラリア ポートリンカーン高校との交流

(1) 概要

ポートリンカーン市派遣事業 (1991年から毎年実施)

目的：地域の活性化、人材育成、相互理解と親善、郷土を愛する心の育成、地域リーダーとしての自覚の促進

1991(平成3)年3月	室戸市とポートリンカーン市(オーストラリア)が友好都市提携を締結
1992(平成4)年10月	両都市の中高生が互いの市を訪問する交流事業開始 (室戸市は市の友好交流協会が企画、運営)
2020(令和2)年	新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた訪問の中止決定
2020(令和2)年8月	ポートリンカーン高校とのオンラインでの交流を開始
2021(令和3)年 4月8日(予定)	ポートリンカーン高校(ポートリンカーン市)との姉妹校提携締結

室戸市とオーストラリアのポートリンカーン市との友好都市提携が締結されて今年で30周年を迎える。しかし今年度は新型コロナウイルス感染症予防のために1991年から毎年行っていた各国訪問による年2回の生徒間交流が中止となった。そういった中で、これまで長きにわたり続いてきた交流を継続させる方法を模索し、結果として以下のような活動を行った。

(2) オンライン交流

令和2年11月25日と12月2日の2回にわたり、1年2ホーム9名を対象にオンライン交流を行った。相手校との時間割の関係で、残念ながら他のクラスの生徒は参加することができなかったが、両校とも同じメンバーで2回交流したことで、中にはお互いの名前を覚えていた生徒もあり、継続した活動によるメリットを感じることができた。

1、2回ともお互いに自分自身について日本語と英語を交えて紹介し、本校生徒は事前に作成した室戸市の魅力を紹介するポスターを使って英語で説明する活動を行った。室戸市についての地域学習を「産業社会と人間」(探究科目)で行っていたためスムーズにポスターを作成することができた。また、それらのポスターはFacebookで公開し、「室戸の魅力を英語で伝える」コーナーに活用した。



(3) 手紙の交換

ポートリンカーン高校で日本語の授業を履修する 33 名から日本語と英語で書かれた手紙 (Word 形式) が届いたので、本校の 1、2 年次生全員が返事を書く活動を行った。英語で返事を書く際には多数のポートリンカーン高校生が使っていた、“Pleased to meet you.” という手紙の書き出し文を真似て使う生徒が多く、こういった、教科書以外の活動を通して得られる学びがあることを感じた。また、これをきっかけに生徒が手紙の書き方を学べたので、授業においても「～に手紙を書こう」という活動を活発に行うきっかけにもなった。

(4) 異文化交流

手紙の交換を通して、ポートリンカーン高校生の何人かが日本文化学習の一環として「キャラ弁」の作成をしたことが分かった。2 年次生のコミュニケーション英語Ⅱの授業でお弁当の歴史について学んでいるため、教科書で扱った内容に加え、インターネットで調べて分かったことを Google Jamboard を使って英語で書いて送るという活動を行った。

【内容】

- ①日本のお弁当、給食について説明するスライドを Google Jamboard で作成し、送付 (2 年次生 5 名)
- ②ポートリンカーン高校の生徒が授業の一環で作ったキャラ弁について書いた手紙 (Word) を受け取る (ポートリンカーン高校 5、10 年生 28 名)
- ③②で受け取った手紙への返信 (1～3 年次生 60 名)
- ④ビデオ会議システムを用いた交流 (1) 自己紹介、地域の紹介など (1 年次生 9 名)
- ⑤ビデオ会議システムを用いた交流 (2) 自己紹介、地域の紹介など (1 年次生 9 名)

【工夫した点】

○教科と関連した取り組み

- ・交流のために特別な準備をするのではなく、授業での学びを交流に活用した。
- ・日豪それぞれの学校が教科書や異文化理解の授業で学習した内容について共有した。
- ・活動を通して英文手紙の書き方を学び、その知識を活用して授業で手紙を書く活動を行った。
- ・総合的な探究の時間に行った地域探究活動で訪れた場所や地域の魅力を説明するポスターを作成し、活用した。

【今後の課題】

- ・同じ相手とのメールの交換→ビデオ会議システムでの交流といった流れを作り、生徒のモチベーションアップにつなげたい。

(5) 姉妹校提携

室戸市とポートリンカーン市の友好都市提携 30 周年を記念し、かねてから双方で期待が高まっていた姉妹校提携の締結を実現させるべく関係各所との話し合いを進めている。

※Google Jamboard で共有したお弁当に関する説明スライド



※本校生徒からの手紙の返信→



3 その他の国際交流活動

(1) 概要

友好都市訪問やその他の海外訪問ができない状況ではあったが、オンライン交流やメールによるやりとり、手紙を書いて送るといった交流が促進された。また、ポートリンカーン高校生とのやりとりを通して手紙の書き方について学習できたことをきっかけとして、手紙やメールを書く活動を多く取り入れたるなど、国際交流活動と授業を関連付けることで生徒の学びを深めることができた。

① 手紙、メール交流

時期	手段	送付先・参加生徒・概要
2 学期	Eメール	<ul style="list-style-type: none"> • The Friends of the Asian Elephant (FAE) (タイ) • 2 年次コミュニケーション英語Ⅱ履修生徒 • 教科書(増進堂 NEW STREAM English Communication Ⅱ)で、タイにある世界初の象の病院、そこで保護されている地雷により片脚を失った象のモータラについて学習した。今もなお世界中にある地雷の脅威についても調べ、FAE の創設者であり、教科書にも登場するソライダさんにメールを書いた。全員への返信とモータラの写真を頂いた。
〃	郵便	<ul style="list-style-type: none"> • Kowloon Rhenish School (私立小学校) (香港) • 1、2 年次生全員 • 英語科教員の知人より依頼を受け、英文手紙の書き方を学んだ現地小学生の交流相手として返事を書き、室戸の紹介も盛り込んだ手紙やカードを送った。
〃	郵便	<ul style="list-style-type: none"> • CANDLES Holocaust Museum (アメリカインディアナ州) • 3 年次英語一般 b、英語探究 a 履修生徒 • インターネットを活用し、社会の問題について学ぶ授業を行った。アウシュビッツ強制収容所における双子実験の生き残りであるエヴァ・コールさんが創設したホロコースト博物館に了承いただき、インターネットを活用して英語で文献を読んだり、動画を視聴したりといった活動を行った後、手紙

		を送付した。
3 学期	郵便	<ul style="list-style-type: none"> ・NASA（アメリカ航空宇宙局）（アメリカワシントンD.C.） ・1年次コミュニケーション英語Ⅰ、2年次コミュニケーション英語Ⅱ履修生徒 ・1年次生の教科書（東京書籍 Power On English CommunicationⅠ）でISS、2年次生の教科書でJAXAについて学ぶ単元がある。それぞれが宇宙開発について学び、さらにインターネットで調べ学習をした後に、教科書で学んだ内容の説明とNASAへの質問などを含めた手紙を書き、送付した。

② オンライン交流

時期	手段	交流相手・参加生徒・概要
3 学期 (2/19)	オンライ ン	<ul style="list-style-type: none"> ・リーハイ大学助教授 山崎氏とその長女（17歳）（アメリカペンシルバニア州） ・1年次生全員 ・アメリカにわたることになったきっかけや現地での生活、文化やファッションなど生徒との英語と日本語をとりまぜた質疑応答形式で教えていただいた。

(2) 成果と課題

授業の単元と関連させることで、教科書の内容をより深めることができたのは大きな収穫であった。今後は直接の交流とオンラインのやり取りを組み合わせることで、より活発で深みのある活動ができることを期待している。来年度の取り組みとして、ある程度決まった形式の振り返りシートを作成し、生徒の変化を見取るだけでなくその後の取り組みにも活かせるようにしたい。

第 1 章 研究開発の実施報告

IV 国内交流活動

IV 国内交流活動

日本国内にも目を向け、本校と同様にジオパークを活用した取組を推進している高校がある。広い視野で課題解決するためには、日本国内の他のジオパークの生徒と交流し、室戸の課題解決に役立てる必要がある。

ここでも、他県のジオパーク推進協議会の方々のお世話になり、学校間交流を拡大することができた。

1 三好ジオパーク構想地域 交流活動

室戸地域とジオパーク構想を目指している三好地域との交流をとおして、室戸地域の文化やその地域課題の取組を知ることができた。

(1) 日程

令和2年11月9日～11月12日

11月9日 室戸→阿波池田 バス移動

10日 阿波池田の町並みガイド、池田高校生と交流

11日 大歩危ガイド、遊覧船、かずら橋ガイド、ひの字溪谷

12日 古式そば打ち体験塾、終了後→室戸 バス移動

(2) 参加者

生徒生徒	5名
国際交流アドバイザー	小笠原 翼
室戸高校	教員1名

(3) 活動報告

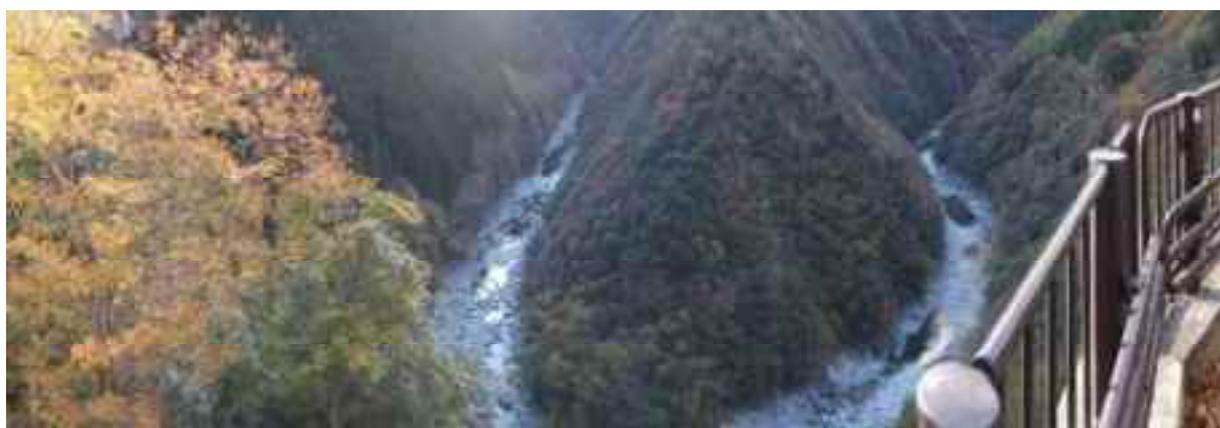
体験の一日目は三好市の池田地域の街並み探索と徳島県立池田高校生徒との交流を行った。地形を生かした産業や文化について主にたばこ産業と酒造について学び、同世代との意見交流では、地元の特産品を紹介しあうことで改めて地域の産業や文化を考える良いきっかけとなり、親睦を深めることができた。

体験の二・三日目は祖谷地域に移動し、独特の地形や生活・食文化について学んだ。

室戸市は主に海を中心とした生活文化圏であることに対し、三好市は四国山地と吉野川という地形的背景があるうえ、池田地域・祖谷地域という異なる文化圏が形成されされているという点も、生徒たちには印象深く残ったようである。と



かく地形の違いだけに目が向けられるが、生活様式や食文化など、何気なく普段生活している地域と、実際に訪問して比較を行うことができ、これから地域課題を探究していくうえでも良い機会となった



2 長崎県立口加高等学校とのオンライン交流（遠隔システム）

口加高等学校は室戸高校と同じUGG p 地域ということもあり、2019年の「日本ジオパーク全国大会 In おおいた」から交流があり、昨年度の同発表会へも参加をしている。

今年は、3年次生の男子生徒が課題研究の中で「室戸ジオパークのテーマソングをつくる」というテーマで研究を進めており、その成果を発表することにより、本校のジオパーク学での学びをさらに深めるためのきっかけとなるような交流となった。

(1) 概略

島原半島 UGG p 口加高等学校 探究学習発表大会 オンライン参加

(2) 参加者

生徒生徒	5名
国際交流アドバイザー	小笠原 翼
室戸高校	教員2名

(3) 日時

令和3年1月26日 13:40~14:10

(4) 目的

他者の発表から生じた疑問を相手に伝え、論理的批判的思考力を育成する。

(5) 活動

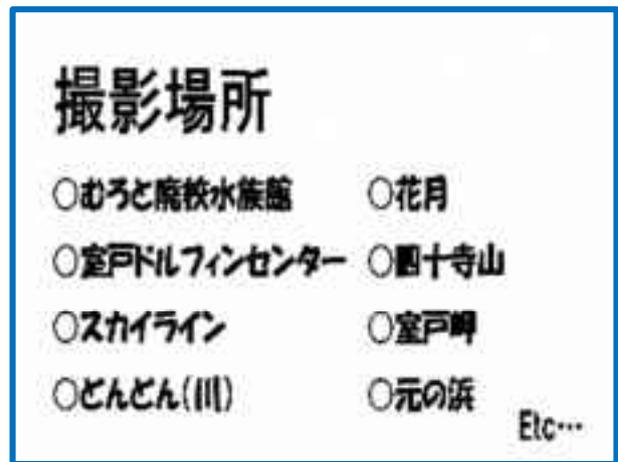
13:40～ 口加高校グローバルコース 防災班 発表

13:50～ 室戸高校「室戸ジオパークのテーマソングをつくる」 発表

14:00～ 質疑応答

質疑応答では、口加高等学校側、室戸高等学校側からそれぞれの発表への質問があり、生徒同士が積極的に交流を深めることができていた。

(6) プレゼンテーション内容抜粋



(7) 交流の様子





3 三好ジオパーク構想推進協議会 教育部会への参加（遠隔システム）

上記のⅣの1で報告した三好ジオパーク構想推進協議会よりお話をいただき、同教育部会の会員に対して、普段からジオパークについて学んでいる高校生と交流をすることで、三好ジオパーク構想地域の今後のジオパーク教育について考えるきっかけとなった。

また室戸高等学校の生徒も、他者からの意見を聞くことで、室戸地域の魅力や課題についても再認識することができた。

(1) 概略

三好ジオパーク構想推進協議会教育部会へのオンライン参加

(2) 参加者

生徒生徒	5名
国際交流アドバイザー	小笠原 翼
室戸高校	教員

(3) 日時

令和3年1月27日

(4) 目的

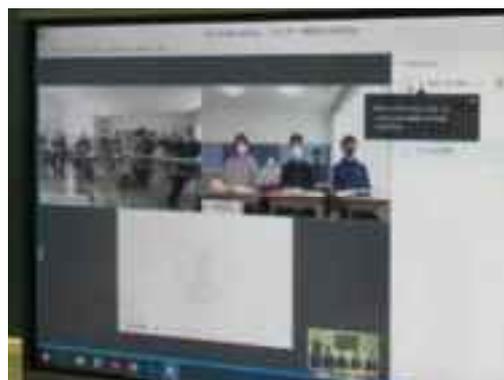
室戸高校生と池田高校生のジオパークへの取り組みを、三好ジオパーク構想推進協議会の教育部会の会員に知ってもらい、三好ジオパーク構想のジオパーク教育のこれからを考えるきっかけとすることを目的とする。

(5) 活動

10:30～ 国際交流アドバイザー 小笠原 翼より、室戸ユネスコ世界ジオパークのこれまでの歩みや、今後の課題等について

10:45～ 三好ジオパーク構想地域へ訪問した室戸高校生より、ジオパーク活動に関わる前と後で、自分自身で気づいたことや学んだこと、三好ジオパーク構想エリアに来て、室戸UGGpとの違いをどのように感じたかなど、活発な意見交換を行うことができた。

(6) 交流の様子



4 本校の地域貢献活動の実績

(1) 今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、室戸市内を中心に行われるボランティア活動や各種催し物を学校が生徒に紹介し、参加させることができなかった。しかしながら、室戸警察署や交通安全協会主催の街頭キャンペーンについては希望者を募って、参加することができた。来年度以降も新型コロナウイルス感染予防対策をしっかりととりつつ、各種団体が企画する地域貢献活動へ参加していきたい。

NO	地域団体	日程	活動内容・対象生徒
1	NPO 法人 夢創房室戸迎鯨の杜	6. 21	海辺の生物観察会ボランティア ・生徒希望者8名
2	丸山長寿園	6. 22～26 11. 9～11. 13	施設実習 ・福祉系列選択生徒 高齢者施設でのレクリエーション実践 ・福祉系列選択生徒

3	むろと保育所	7. 8 7. 27、10. 20 10. 30	幼児教育についてアンケート調査 ・ 課題研究活動生徒 幼児英語教育についてアンケートと英語活動の実践 ・ 課題研究活動生徒 ハロウィン行事の幼児の活動について ・ 福祉系列選択生徒
4	室戸中学校	8. 22 11. 13	部活動の中高交流について ・ 卓球部自主活動生徒 室戸市の人口減少対策について ・ 福祉系列選択生徒
5	室戸市商工会	9. 22	スポーツによる地域経済の活性化について調査 ・ 課題研究活動生徒
6	安田中学校	10. 23	室戸市の人口減少対策について ・ 課題研究活動生徒
7	室戸漁業実習生受け入れ団体	11. 1	インドネシア人漁業実習生へ日本語指導について調査 ・ 課題研究活動生徒
8	室戸ドルフィンセンター	11. 9	ジオパーク MV の制作について ・ 課題研究活動生徒
9	室戸市交通安全協会	11. 10	「いい点灯の日」啓発活動 ・ 生徒会、生徒希望者
10	室戸市役所 産業振興課	11. 16 2. 16	高知家地方創生アイデアコンテスト 2020 のプレゼン内容に関する聞き取り調査 ・ 参加希望生徒 3 名 ジオパークと海洋深層水についての聞き取り調査 ・ 課題研究活動生徒
11	サンシャイン室戸 (スーパー)	1. 26	交通死亡事故防止活動ボランティア ・ 生徒会、生徒希望者

活動の紹介（一部）

◆令和2年11月10日

11月10日に室戸警察署、交通安全協会と合同で街頭キャンペーンを行った。11月10日は「いい点灯（1110）の日」ということで、ドライバーの皆さんへ早めのライト点灯を呼びかけた。

室戸高校からは各クラスの交通安全委員の生徒やバスケットボール部、バレーボール部、サッカー部の生徒、ボランティアとして参加してくれた生徒など、合計14名が参加した。



◆令和3年1月26日

1月26日に開催された交通安全協会室戸支部主催の街頭広報活動へ、室戸高校から17名の生徒が参加した。

今年に入り、高知県内ではすでに交通死亡事故が5件発生し、6名の方が犠牲者となっている。そこで、「早めのライト」「おもいやりライト」「今点灯」等のパネルを掲げ、交通死亡事故の防止を目的とした広報活動を、関係機関と協力して実施した。



◆令和3年3月18日

全校生徒で、室戸ユネスコ世界ジオパークエリアにある室戸岬周辺の清掃活動を行った。年に1回（毎年5月）は必ず実施している学校行事ですが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大による一斉休校もあり、5月に実施することができなかった。

5 「国際生徒研究発表&JICA.」

令和2年11月10日開催

高知県高等学校国際教育研究協議会、高知県高等学校教育研究会国際教育部会主催
「高知県高等学校国際教育生徒研究発表大会」

2019年にマレーシアのランカウイを訪問した生徒が、現地の高校生徒の交流を通してイスラム教やムスリムへのイメージが変化した経験を元に、学校の授業で学んだ黒人差別などの社会問題と関連付けて「日本においても学びはある」ということを訴えた。また、高知県大会においては「グループ発表の部」にも参加し、「大切なもの」と題してオーストラリアのポートリンカーン市を訪問した生徒が先住民の文化を守ることの大切さを訴えた。

最優秀賞受賞

意見発表の部（日本語）「共に生きる社会」

令和3年1月20日開催

四国高等学校国際教育委研究部会主催
「四国高等学校国際教育生徒研究発表大会」

高知県大会で最優秀賞を受賞した生徒が高知県代表として、同タイトル・内容で四国大会に出場した。

優秀賞受賞

意見発表の部（日本語）「共に生きる社会」

【審査員講評】

- ・マレーシアでのイスラム教徒との対話、イスラム教への思いを、全世界に広がる偏見や差別の防止に敷衍（ふえん）したメッセージ性の高い意見発表であった。



独立行政法人国際協力機構（JICA）主催

「JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2020」学校賞受賞

国際理解教育の一環として1、2年次生を対象に33名が国際協力に関するエッセイを書き、応募した。地域理解から国際理解へと多角的な視点で物事を見つめ、考えるきっかけ作りとなることを期待し、今後も学校賞受賞を目指し応募を続けたい。

6 「地方創生アイデアコンテスト」

「産業社会と人間」を通して地域の魅力や課題を発見した経験をもとに、県主催の地方創生に関するアイデアを提案するコンテストに参加した。また、発表準備段階では、室戸市役所の方々や楽天株式会社の社員はじめ、色々な分野の人にアドバイスをいただき、実現可能性と持続可能性を模索した。

高知県主催「高知家地方創生アイデアコンテスト2020」

令和2年12月20日 オンライン開催

【タイトル】

「ススメ、Society5.0へ！持続可能なサテライトオフィス誘致計画」

【要旨】

まずRESASを活用し、室戸市の地域経済循環率、企業数などから現状を分析した。雇用の創出も難しく、地域を活性化するために何らかの対策をしなければならないのは明らかである。コロナ禍では、観光客の増加にも期待できない。そこで、サテライトオフィスを誘致し、仕事と人を一度に獲得することが有効であると考え、その具体的方策を発表した。



【結果】

県内43チーム（うち高校8校28チーム）の応募による一次選考を経て、見事最終審査に出場する10校に選ばれた。また、最終審査では敢闘賞を受賞し、後日、本校にて主催者より表彰状と副賞が授与された。

【生徒の感想より】

- ・入賞を目指すなかで、自身の住んでいる地域の課題をはっきりと知ることができた。
- ・ほかのグループのアイデアにより刺激を受けた
- ・地域の課題や長所を知ることができた。
- ・室戸市の現状を分析する際に他の地域と比較して考えることができた。



7 グローカル探究発表会

令和3年1月30日 オンライン開催

文部科学省指定グローバル型地域協働推進校探究成果発表委員会主催 「2021年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会」 (Glocal High School Meetings 2021)

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」の指定校として、本校の取組について10分程度のプレゼンテーションを行った。英語発表部門に5名(3年次生1名、2年次生4名)、日本語部門に2名(2年次生)が出席し、いずれの取り組みについても高い評価を頂いた。

英語発表部門

金賞・文部科学省初等中等教育局長賞受賞

「Our Proposal for the Regional Development of Muroto City」

(室戸市の地域活性化に向けての取り組み)

【要旨】

Muroto High School has been designated as a "glocal" high school, where students discover and explore local issues facing Muroto City and research how to solve them from a global perspective. Muroto is the fifth least populated city in Japan. It is a two-hour drive from the center of Kochi Prefecture, and is a typical city suffering from urban decay due to the low birthrate and aging population. However, Muroto has one major feature: it is home to the UNESCO Global Geopark.

It is often said that "Muroto has nothing to offer," but in fact, we believe that we can make Muroto an appealing city that attracts a lot of people by valuing what we have and promoting it effectively. We are trying to find out what we, as local high school students, can do to make the city more attractive. Among the various initiatives, we will present how Muroto High School students have been involved in and contributed to the solution of local issues through the UNESCO Global Geopark.

The main focus of the presentation will be the lessons learned through the re-examination of the Muroto UNESCO Global Geopark and the exchange with Langkawi Island in Malaysia, which also has a geopark. As a result of the cancellation and postponement of various activities due to the pandemic, there is still a lot to be done, but I hope to share with you the progress we have made one step at a time through this presentation.

室戸高校はグローバル型の指定を受け、室戸市が抱える地域課題の発見、探究そしてグローバルな視点を持って、どのようにして問題を解決していくべきかを研究しています。室戸市は日本全国の中で5番目に人口が少ない市であり、高知県の中心地から車で二時間、少子高齢化による都市の衰退に悩む、ある意味典型的な市です。ただ、室戸市には大きな特色があります。それはユネスコ世界ジオパークを有しているということです。

「室戸には何もない」とよく聞きますが、実は、今あるものを大切に、上手にアピールしていくことで、たくさんの人々が集まる、魅力的な市にすることができるのではないかと私たちは考えています。そして、地域の高校生である私たちにできることは何か、学校を上げて模索しています。様々な取組の中で、今回、ユネスコ世界ジオパークを切り口とした地域課題の解決に、どのようにして室戸高校生が関わり、貢献してきたかの発表を行います。

室戸ユネスコ世界ジオパーク再審査、そして同じくジオパークを有するマレーシアのランカウイ島との

交流を通して学んだことが大きな柱となります。パンデミックによる様々な活動の中止や延期もあり、まだまだできていないことは多いですが、一歩ずつ進めてきた歩みをこの発表で皆さんと共有できればと考えています。

【参加校教員によるコメント】

- 地域の財産について深く学んでいる点が素晴らしい。英語によるプレゼンテーションに慣れるとなおよい。
- 三年間を通しての探究活動の様子が伝わってきた。地域の課題に向けて、今できることを実践されている点が良い。
- 地域の財産であるユネスコ世界ジオパークを活用して、地域の魅力発信を進めようとしているのがよく分かる。また、ランカウイとの比較も興味深い。地域課題は明確であるが、魅力発信で課題をどう解決するかまで踏み込めれば一層よくなる。
- ミュージックビデオが良い。地元の課題解決に向けて、取り組んでいる様子が素敵である。
- ユネスコ世界ジオパークを具体的に突き詰めている点が優れている。マレーシアの学校とのジオパーク交流、中学生へのプレゼンテーションなど、室戸の活性化を高校生が真剣に考えていることが分かる。英語のサイトの作成や、海外とのオンライン交流など、活発な展開に皆さんの熱意がうかがえた。四国は島として素晴らしく、自然豊かな高知の魅力も二度の訪問から感じている。期待している。
- 地域のことをしっかりと学ぶ機会があり、国際比較して発信するまで、自ら考え取り組んでいることがよく分かる発表であった。

【審査員による講評】

- It's really great to know that you no longer think there is nothing in Muroto, but you came to realize that there are a lot to offer to people who live in other places. And you have started to think about how to promote Muroto. I have been to Muroto once, and I remember I was quite impressed with its nature and landscape. I was also impressed you have actively expanded your network despite the pandemic of COVID-19. Your slides and movies were also effective. Some of you might want to work on the pronunciation of "see" and "sea" -they sound the same as a "C", but this is a minor problem. Keep up the good work!
- Your contributions to the Muroto geopark is great!
- 急速に進む少子高齢化で地域が寂れていく（人がいなくなっていく）ことに高校生としてできることを真剣に行っている。室戸岬周辺は地学的には大変興味深い地域で、景観の美しさと共にそれを売り出して観光業を盛んにすることはできる。さらに異なった視点で室戸を見直すこともできるのではないか。

日本語発表部門

銀賞受賞

「室戸高校避難所対応マニュアルへの提案—避難所周辺の地理/地質状況を反映して—」

【要旨】

本発表では、高知県立室戸高校作成の「避難所対応マニュアル」（以下「マニュアル」）の想定する避難所運営が、室戸高校の周辺の地形や地質条件をもとに安全なものであるかを検証した結果について述べる。「マニュアル」では、地震発生時に体育館を周辺住民や生徒らを収容する第一次避難場所として想定して

いる。しかし、高知県作成の防災マップでは、室戸高校の位置する場所は「液状化の可能性が大」とされるエリアに含まれている。さらに同マップは、体育館の裏に位置する傾斜地が、崩壊の可能性があることも示唆している。そこで発表者は、室戸市防災対策課・室戸ジオパーク推進協議会などの協力を得ながら、上記のような学校立地条件の中で比較的安全な避難場所について検討し、室戸市及び室戸高校に「マニュアル」改善のための提言を行った。

【参加校教員によるコメント】

- ・いつ来るか分からない大災害に備えて、地域と連携して取り組むことができている点が素晴らしい。
- ・自分の素直な疑問からの出発が素晴らしい。防災・減災のために何ができるか、何をしておくべきか考えさせられる。
- ・自校の防災マニュアルを地検図などのデータを用いながら検証しており、とても興味深かった。
- ・身近でなおかつ重要な問題をテーマとして設定していると感じた。実際に自治体に提案する行動力が素晴らしい。
- ・「避難所＝安全」という点に視点を置いた探究で素晴らしい。防災意識の側面からも考えていけるとよい。
- ・ハザードマップを元に、避難場所を多角的な視点から考えることができている、それを発信できていてすごい。
- ・グローバルな課題としてどのように発展させていくか今後の構想があれば聞きたい。
- ・海拔ゼロメートル地帯の高校として、非常に共感した。液状化現象などの問題から避難場所について考え提案したのがよい。行政と協力しながら、室戸高校だけでなく、地域全体の防災を高校生が変えていけると面白い。

【生徒の感想より】

- ・この発表を通して、改めて地域の魅力を知ることができた。しかし、室戸に住んでいる人は意外とその良さに気付いていないので、いかにして私たちが情報を発信していくかが重要だと思う。SNSなどのツールをうまく活用したい。
- ・英語の力だけではなく、地域の良さに気付く力など、多くの能力が身に付くので、後輩にもこういった発表に積極的に参加してもらいたい。
- ・室戸高校生が様々な授業や活動を通して、室戸市に貢献していることが分かった。
- ・これからも色々な大会やコンテストに参加し、室戸市や室戸高校について知ってもらえるように積極的に活動したい。
- ・「室戸には何もない」という固定概念を取り払うには、地域に住む自分たちが地域の良いところに気付き、伝えていく必要があると感じた。



室戸高の生徒が、英語でプレゼンテーションを行い、課題解決を発表した。発表は、英語でプレゼンテーションを行い、課題解決を発表した。発表は、英語でプレゼンテーションを行い、課題解決を発表した。

Our Proposal for the Regional Development of Muroto City

Yua, Nanami, Reina, Mizuki, Mahito
(Muroto High School, Kochi Japan)

高知県立室戸高等学校

室戸高校避難所対応マニュアルへの提案
・避難所周辺の地理・地質状況を反映して・

高知県立室戸高等学校

機軸：てらみ、花井 真樹

V カリキュラム開発

E S Dの視点で地域貢献につながる活動を体系化することは、指定校事業終了後の学校体制の在り方において貢献度が高く、本事業の核となる研究である。学校活動の質の向上、協働促進を目標に、令和3年度の室戸高校オリジナルカリキュラムの確立に向け、継続的に取り組んでいる。今後の取り組みにおいて、特に中央教育審議会にて文部科学省より示された3つのポイントを元に「教科横断的な視点」「P D C Aサイクル(教育課程の編成→実施→評価→改善)の確立」「教育内容とヒト・コト・モノのつながりと活用」を意識したい。(別添資料参照)

1 教科横断型カリキュラムの作成

(1) 概要

カリキュラム作成における成功は、実際の授業との乖離を最低限に抑えること、教員全体が参加することが鍵となる。本校では独自の表を作成し、各科目でどのような学びが行われているのかを可視化する仕組みを進めている。その際、以下2点に留意した。

1. 入力内容を簡略化し、負担感を減らす
2. カテゴリー化(※)することで、教科間の関連を見つけやすくする

カテゴリーは最初、SDG sの17項目を活用する案が出たが、数が多いため入力の際に迷ったり関連性を見つけにくくなったりといった不安を感じたため、室戸高校独自のカテゴリーを作成し、M I C Sと名付けた。

M I C S (M:室戸高校で I:一緒に C:カテゴリー化 S:しよう)

文化	健康	仕事	資源・エネルギー	経済	教育	社会	災害・自然
----	----	----	----------	----	----	----	-------

参考資料：佐藤 真久(2019). 身近な課題の解決に挑む未来の授業 宣伝会議

(2) 成果と課題

表の作成以前に、2年生の「生物基礎」「コミュニケーション英語Ⅱ」においてパーム油について同時期に扱い、生物基礎では生物多様性、コミュニケーション英語Ⅱでは当事者のそれぞれの立場に立ってのディスカッションという風に、科目独自のアプローチでパーム油を取り巻く状況について学習した。また、英語の授業でディベートについて学習し、生物基礎でレジ袋の是非について議論するという活動も行った。この経験から、生徒の学びの深まり、そして協働による教員の負担の軽減を実感できた。こういったメリットを協調することで教員全体を巻き込んだ取り組みにしていきたい。

現時点では全体への周知ができていない。一部の教員の取り組みで終わらないように、負担なく協働を進めていける仕組みが必要である。(別添資料参照)

2 SDG sを活用した授業実践(理科)

(1) 概要

1年次生の化学基礎の授業で実施。今回はSDG sについて初めて学ぶため、SDG sの目標を意識づけること、世界の諸課題を自分ごととして考えることを目的として授業を行った。授業の流れは下記に示すとおりである。

導入	<p>○SDG s の概要説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つのキーワードを取り出して説明。 <ol style="list-style-type: none"> ① “leave no one behind” (誰一人取り残さない) ② “Transform” (変革する)
展開	<p>○SDG s の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDG s は日本語では「持続可能な開発目標」であり、目標という部分を強調した。 ・SDG s は世界の「共通認識」であるとし、目指すべき道筋を示してくれているだけであり、我々がその道筋を実際に歩いていかなければならないと説明し、自分ゴト化して実行していくことが大切であることを示した。 <p>○フィーリングゲームの実施 (Feeling Game)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイムーン工房*のイラストを用いて、イラストの意図することを読み取り、関係するSDG s の目標をワークシートにまとめた。(GW) <div data-bbox="308 884 555 1055" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="587 884 810 1055" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="839 685 1430 1072" data-label="Image"> </div>
まとめ	<p>○穴埋め形式での振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穴埋めに入る言葉を、GW で考えた内容をもとに発言させた。 <div data-bbox="906 1086 1412 1355" data-label="Complex-Block"> <p>まとめ</p> <p>人間は 利便性 の追求によって 自然環境 を壊き去りにしてきた。</p> <p>SDG s はただの ツール(道具) であり、使いこなす ことが重要である。</p> <p>地球への負担が大きいので地球に対する 思いやり を持つことが大事。</p>  </div>

※ハイムーン工房 <https://highmoonkobo.net/>

(2) 成果と課題

成果としては、SDG s を知っているだけでは意味がなく、活用していくことが大事だと生徒自身が気づけたことがあげられる。しかし、自分事として考えることがまだあまりできておらず、行動に移せていないことが課題である。

3 SDG s を活用した授業実践 (数学)

(1) 概要

1年2Hの生徒9名を対象に数学Iのデータの分析の授業で実践を行った。南海トラフ地震が起こったときに、どこに避難をするのかについて資料を読み取り、予測と対策を考察させた。地域の課題として、津波の到達時間が早いことを想定し、高齢者、肢体不自由者、感染症、時間帯や人の動き等多くの課題について考えていかなければならないことを実感させ、予測と対策から被害を最小限にする手立てを自ら考えるようになることを目的とする。

導入	<p>○ジグソー学習について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住んでいる地域の安全性は確かなものなのか疑問を抱かせる。 (予想されている津波の到達時間や津波の高さを提示) ・時間帯や場所を設定し、各自で逃げる場所と地震への対策について理由を考えさせる。
展開	<p>○ジグソー学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループに避難場所と地震への対策を発表させる。 ・資料を読み取る中で地震や津波への危機感を持たせる。 (地域ごとにみて人口に対するタワー数が足りていないことや最適な避難場所が存在するかどうか等) <p>○避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所の防災対策課に協力してもらい、実際に地震が起こり、津波がきたとしてタワーまで避難させる。 ・土地勘のあるグループと土地勘のないグループに分ける。 (車いすを使った避難、防災リュックを持つての避難を含む) ・机上ではわからないことについて実体験を通して考えさせる。 <p>○動画編集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習をまとめたものを「私たちの地域や、国、世界の中の様々な課題を数学で解決するアイデア」として、一般社団法人SDGsプラットフォーム主催「私の数学のイメージ」表現コンクールに応募するため、SDGsの項目(11. 住み続けられる街づくりを13. 気候変動に具体的な対策を)に照らし、1分間の動画を作成させた。
まとめ	<p>○動画編集者に授業をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの問題点や改善策等自分にできることや行政にお願いすることを分けて考察させる。 ・全体で共有し、違った意見を知ることで、他の生徒や授業者に振り返らせる。

(2) 成果と課題

今回、データの分析の授業を通して、地域の現状と実態を知り、そこから予測と対策を考えた。そして、実際に避難することによって新たな課題を発見し、振り返ることができた。数学とSDGsそして防災について関連づけて幅広い学習ができた。また、感想文を英文で書くことで英語科との教科横断的な学習にも結びついた。

防災について継続して考えていくことが大切だということから今後行政に向けた取り組みを視野に入れ、地域との学びに繋がる学習の機会を与えたい。

第2章 評価

I 本年度の評価

I 本年度の評価

1 成果実績

(1) 普及方法とその実績

- ・「産業社会と人間」 ライフプラン発表会
令和2年12月1日 13:30～15:00 室戸高等学校
- ・「課題研究」 課題研究発表会
令和2年12月15日 9:00～15:00 室戸高等学校
- ・「ジオパーク学」 ジオパーク学研究発表会
令和3年2月25日 13:30～14:20 室戸高等学校
- ・全国高等学校グローバル探究オンライン発表会 受賞報告
令和3年3月5日 11:30～12:00 室戸市議会
- ・「続・産業社会と人間」 職場体験発表会
中止
- ・総合学科発表会
中止
- ・地域貢献活動等の広報
生徒の活動について、室戸市の広報に毎月掲載

2 評価

(1) 学校オリジナルアンケート（生徒）

1学期、3学期の年間2回（3年次生は1回）実施しており、生徒の生活全般にわたって調査している。

【高知県オリジナルアンケート抜粋】（昨年度のデータとの比較）

	選択肢	学年	3年		2年		1年
		年度	R1	R2	R1	R2	R2
地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがある	1	あてはまる	21.1%	36.8%	18.8%	10.0%	0.0%
	2	どちらかといえばあてはまる	42.1%	31.6%	53.1%	30.0%	50.0%
	3	どちらかといえばあてはまらない	15.8%	10.5%	28.1%	36.7%	27.3%
	4	あてはまらない	21.1%	15.8%	0.0%	23.3%	22.7%
地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、行動している	1	あてはまる	47.4%	57.9%	28.1%	36.7%	54.5%
	2	どちらかといえばあてはまる	36.8%	31.6%	37.5%	46.7%	18.2%
	3	どちらかといえばあてはまらない	0.0%	10.5%	21.9%	10.0%	27.3%
	4	あてはまらない	15.8%	0.0%	12.5%	6.7%	0.0%
将来の夢や目標を持っている	1	あてはまる	57.9%	52.6%	65.6%	43.3%	59.1%
	2	どちらかといえばあてはまる	21.1%	21.1%	18.8%	33.3%	31.8%
	3	どちらかといえばあてはまらない	10.5%	15.8%	12.5%	20.0%	4.5%
	4	あてはまらない	10.5%	10.5%	3.1%	0.0%	4.5%

新型コロナウイルス感染症の影響で、地域活動が十分にできなかったためか、何をす

べきか考えることが難しい状況になっていることがうかがえる。しかしながら、そのような状況でも一定数の生徒が地域貢献活動やボランティア活動など、行動しているという結果が出ており、今後もこの取組を継続させていく。

(3) 学校運営協議会による評価

地域住民や学識経験者を中心とした学校運営協議会から、年度末に取り組み内容について評価をいただいた。

- ・室戸市の牽引力として、室戸高校に活躍してもらいたい。
- ・地域的にオンラインで参加できる会議や研修はメリットが大きいのではないかと。
- ・室戸市民に対するPRを工夫すべき。県外では、スーパーマーケット等の人が集まる場所に、ポスターを掲示することでどのような活動をしているのか、宣伝している学校もある。
- ・教職員自身が地域の学問の府であるという自負を持ってほしい。
- ・室戸市内への学校説明会の印象が年度によって異なる。室戸高校に行ったらこんなことができるという強いメッセージを与える必要がある。
- ・地域のことを教職員はどれくらい知っているのか。室戸のことを知ることで授業に内容を反映することができる。参加しやすい環境づくりを。
- ・学校説明会へはチームで対応すると効果的ではないか。

(4) 目標の進捗状況、成果、評価

※ () 内は令和3年度の到達目標、◎達成 ○ほぼ達成 △未達成

◎文理総合系列において、英検準2級以上取得、もしくはそれと同等の実力があると教員等が認めた生徒の割合52% (50%)

本校生徒の英語力

3年次

生徒の英語力 (CEFR)	6/1現在	12/1現在	学年目標値
B1以上	0人	2人	4人
A	A2	5人	4人
	A1	3人	2人
A1未満	11人	11人	11人

2年次

生徒の英語力 (CEFR)	6/1現在	12/1現在	3/1現在	学年目標値
B1以上	1人	2人	2人	2人
A	A2	2人	1人	4人
	A1	2人	6人	8人
A1未満	28人	24人	12人	20人

1年次

生徒の英語力 (CEFR)	6/1現在	12/1現在	3/1現在	学年目標値
B1以上	0人	0人	0人	4人
A	A2	0人	6人	8人
	A1	5人	3人	5人
A1未満	20人	16人	12人	19人

◎高等学校卒業後の地元就職率33% (20%)

※公務員や地域貢献に関わりたい生徒が増加

企業	県内	株式会社 南国ミロク
		赤穂化成株式会社
	県外	西尾レントオール株式会社
		株式会社 丸本
公務員	県内	室戸市役所
	県外	海上自衛隊

(令和2年度卒業生実績)

△「課題研究」(3年次生)で地域課題解決につなげるテーマの割合48% (60%)

1・2年次生のうちに、もっと地域課題について触れさせる機会を増やすことにより、「体験する」「気付く」「探究する」「発表する」という一連のプロセスを根付かせたい。生徒の興味関心のある分野は幅広いが、自分たちが考えていることは、何につながるのかを考えさせたい。

△日本の他地域のユネスコ世界ジオパークとの交流3回 (5回)

令和2年9月12日 地域みらい留学フェスタ(学校紹介での交流)

島根県立隠岐高等学校

令和3年1月26日 新潟県立糸魚川白嶺高等学校 オンラインによる発表会参加

令和3年1月29日 長崎県立口加高等学校 オンラインによる発表会参加

新型コロナウイルス感染症のため、対面での直接交流を行うことができなかった。そのような状況でも、オンラインを活用することにより、時間や予算といった問題を克服できるツールとしての利用をさらに検討していく。ただし、情報機器整備(タブレット等)や通信回線の不安定さ、ソフトウェアインストール制限などの技術的な課題がある。また、直接交流でしか体験することができないこともあるので、適度なバランスを模索していく必要がある。

△室戸高等学校への入学者数27名(45名) ※令和2年4月現在

事業をとおして、地域に関わりたいと考える生徒が増加し、学習に対する意欲が上昇している生徒も増えてきた。しかしながら、この成果を地元中学の生徒や保護者へPRするにはこれまで以上の工夫が必要である。

昨年度、校内に教職員の中で学校広報チームを作り、室戸市の広報への掲載依頼や、学校前の横断幕等のPR方法を実施してきた。本年度からはHP以外にもFacebookやInstagramといったSNSを活用した情報発信を模索している。今後は、中学校での学校説明会についても工夫をする必要がある。

また、県外生徒を受け入れる制度を整備しているため、地域みらい留学等の仕組みを利用しながら、地域と学校の両方でアピールする予定である。

△室戸高等学校が関わる地域イベント数11件（20件）

新型コロナウイルス感染症のため、イベント自体がほとんど開催されなかった。年度途中からは、十分な感染症対策を講じつつ、学校独自で主催するイベントやボランティア活動から行うこととした。

学校が把握していない自主的活動を含めれば7割以上の生徒が地域貢献活動やボランティア活動に参加している。

しかしながら、学校オリジナルアンケートからも地域や社会に対する目的やその意義を考えず、参加している生徒が一定数存在するのではないかと考える。学校が企画したり斡旋したりする活動に対しては、その目的や意義、期待される効果など事前に考えさせることが必要である。

(5) 次年度以降の課題及び改善点

・海外交流について

今後も新型コロナウイルス感染症による制限が考えられる。国内だけでなく海外の状況を注視しつつ、できる限りジオパークを活用した海外交流とその成果の発表を充実させたい。本来、直接交流が効果的であるが、オンラインを補完的に活用していき、双方の長所を活用した交流としたい。

・地域貢献活動について

本年度は十分な活動が行えなかったが、実施をする前には、その意義や到達目標を生徒に示したい。また、SNSを活用することにより、スピード感のあるリアルタイムな情報発信に努めたい。

海外交流も市民とともに協働して行うことができることが目標である。オーストラリア・ポートリンカーン市との姉妹都市の関係を生かし、来年度の当初には、現地の高校と姉妹校の協定を結び、より一層の交流を行いたい。

次年度は最終年度であり、これまでの学びを生かした形でジオパークを核とした地域貢献について生徒国際交流会を行い、高校生の学びが地域を活性化できるようにしたい。

・「産業社会と人間」「続・産業社会と人間」「課題研究」について

地域貢献活動に関するテーマを強制して設定させるのではなく、主体的に地域課題解決に取り組ませたい。探究という視点に立ち、3年間を見通した学習内容となるよう、改めてカリキュラムの見直しを行っていききたい。

・カリキュラム開発について

E S Dの視点で地域貢献につながる活動の体系化は、今後の本校の活動における核となる。教科横断的な視点も併せて、探究的な活動につなげることができるよう、意識的に取り組んでいく必要がある。

3 令和2年度運営指導委員会

(1) 委員（5名）※敬称省略

岩井 雅夫（高知大学教育研究部自然科学系理工学部門（海洋コア総合研究センター専任）教授）

高橋 唯（室戸ジオパーク推進協議会地質専門員）

近森 憲助（高知学園大学 学長）

杉尾 智子（高知県青年国際交流機構（高知県 IYEO）職員）

別府 誠（高知県 観光振興部 地域観光課 課長）

(2) 第1回運営指導委員会

- ・日 時 令和2年11月2日 13:30～15:20
- ・会 場 室戸高等学校 第2会議室
- ・出席者 委員5名、室戸高等学校2名、教育委員会事務局3名
 - 【運営指導委員】近森会長、岩井委員、高橋委員、
畠山委員（別府委員代理）、杉尾委員
 - 【室戸高等学校】藤田校長、北村教頭
 - 【教育委員会事務局】高野課長、市原チーフ、中越指導主事
- ・協議及び指導助言内容
 - ア 本年度の計画の変更について
 - 委員A
 - 教員のスキルアップ研修については、計画では記載をされていなくても、意義があったということを報告書に記載された方がよい。
 - 委員B
 - 交流はあくまで手段。議論して何かを作り上げていくためには密にコミュニケーションをとる必要がある。
 - 委員C
 - 子供たちとかかわることで得たものが大事。しっかり言語化して残しておくことが必要。
 - 教育的な視点からも事前準備は重要。参加する生徒の個性を勘案しながら全体としてのセッションの在り様を考える必要がある。
 - イ 次年度の生徒交流会について
 - 委員A
 - 英語が流暢である必要はない。内容が伝わるか、中身があるかないか。
 - 委員B
 - 考える時間という点では、ディベートはどうか。
 - ジオパークらしい、地域のことを伝えてどう思ったかをその場で聞いてみてはどうか。
 - 委員C

○基本的な共通点はジオパーク。そこから発展させていくと話が見えやすいのではないか。

○室戸ジオパークの人たちは、何がどうよかったのかということ振り返りながら語ってもらった方がいいのではないか。

委員E

○ネットワークを使う際、通信が途絶した時の準備と規模の確認が必要。

ウ その他

委員B

○評価も気にしてほしい。参加した生徒や周りの生徒がどのように変容したのかを記録に残してほしい。

(3) 第2回運営指導委員会

・日時 令和3年2月16日 13:55～16:10

・会場 室戸高等学校 第2会議室

・出席者 委員5名、室戸高等学校5名、教育委員会事務局3名

【運営指導委員】近森会長、岩井委員、高橋委員、
畠山委員（別府委員代理）、杉尾委員

【室戸高等学校】藤田校長、北村教頭、大和田教諭、清遠教諭、三谷教諭

【教育委員会事務局】高野課長、市原チーフ、中越指導主事

・協議及び指導助言内容

ア これまでの取組について

委員A

○去年国際交流に参加した生徒は地域の違いに気づくチャンスがあった。SNSを使ってボーダーレスにコミュニケーションが取れるという点はチャンスではないか。

○世界のジオパークは観光地になっているところが多いので、それと比べると室戸は純粋に0からスタートして地域がまとまった。元々あった人のつながりや温かさがものすごく新鮮に海外の人に映った。自分たちで作ることができることが一番いいこと。自分たちの住んでいるところが楽しいということが伝われば人が集まってくる。

委員B

○学校主体で動ける体制を作っても欲しい。発表することがゴールではない。教員全体での意識の共有をしてほしい。

○ジオパークになることで誇りが形成されると考えているというところもある。自分たちで決めて実行できることがよいところではないか。

委員D

○「ジオパークがあるから行こう」というものでは高知県自体がない。高知に来て室戸に足を運んだらこんなポテンシャルのある場所があったという体験が、次につながる。日常の生活が素晴らしいものだといいことを発信して

もらいたい。

委員E

- 自分がどういった体験をしたのか、もっと情熱をもって伝えてもらいたい。それがSNSで上がっていったら本当の発信につながる。目標・目的が明確でないといけない。
- もっとシビアな課題が室戸にはゴロゴロしているはず。課題に気付くきっかけを生徒に分かりやすく伝えていく必要がある。

イ 生徒の負担感について

委員A

- 自分たちがどれだけ楽しめるか、充実感があるかが大事。先生方がやっていることが地域とつながっていることがあるはず。負担感や義務感でなく、楽しんでいくことをまず教員からやっていけば、生徒もついてくる。

委員B

- 生徒にとってやったことのないことは負担だらけ。だからこそ、教員が「ここを手伝うから頑張ろう」というスタンスが欲しい。

委員C

- 教員対象のジオパーク研修をやりつつ、事業を進めていくことが必要ではないか。成果が上がっていることに対しての教員団の誇り・オーナーシップを作り上げていく。全体として教員間の意識格差をできるだけなくしていく、かつ伸ばしていくことが重要である。その教員の姿を見ることで生徒の取組が変わってくる。

委員E

- オーガナイザーがどれだけ楽しんでいるのかも重要である。興味がある生徒に徹底的に対応していれば、周りの生徒も向いてくるかも。初めから全員というのは難しい。いろんなことをする生徒には、社会に出る前段階として、優先順位のつけ方の良い経験をしているのではないか。

ウ 教科間の連携について

委員C

- 校種が上がるにつれて難しくなっていくが、地域課題を教科に結び付けることが一つの切り札になるはず。地域間比較をすることも一つの手法である。小学校等の地域学習を高校生が手伝いというのも一つの方法である。
- 教育は地域課題を媒介にして科学的な知見とコミュニティをつなぐ役割ではないか。学校はその具体的な機関である。

委員E

- ジオパークをつなげる役割を負えるのは学校しかないのではないか。

別添資料

室戸高等学校地域協働学習コンソーシアム 規約

(名称)

第1条 本コンソーシアムの名称は「室戸高等学校地域との協働による高等学校教育改革推進事業コンソーシアム」(以下「コンソーシアム」という。)

(目的)

第2条 コンソーシアムは、室戸高等学校が目標とする地域を担う人材の育成と生徒により地域とかわる学習の場を提供するための環境づくりを目指して、高知県教育委員会、地方自治体、民間団体等の地域の多様な関係者と教職員等、室戸高等学校関係者とが、協働体制を構築し、室戸高等学校が高等学校教育改革推進事業を円滑に行うことで、学校教育をより良いものにしていくことを目的とする。

(協働事業)

第3条 コンソーシアムは前条の目的を達成するため、次の協働事業を行う。

- 一 魅力的な学校づくりに関すること
- 二 地域協働学習プログラムの研究・開発に関すること
- 三 室戸高等学校の魅力の情報発信に関すること

(組織)

第4条 コンソーシアムは室戸高等学校と別表1に掲げる地域との協働活動に関わる団体等(以下「構成団体等」という。)により組織する。

- 2 コンソーシアムには、協働事業の方針を審議する代表者を置く。
- 3 コンソーシアムには連絡調整を行う事務局を置く。

(代表者会)

第5条 代表者会は構成団体等が原則1名を推挙し、校長が委嘱する。

- 2 役員は任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 代表者会に次の役職をおく。
 - 一 会長 1名
 - 二 副会長 1名
- 4 会長は室戸高等学校長とし、副会長は会長が定める。
- 5 会長は室戸高等学校に事務局を設置し、事務局長を選任する。

(会長、副会長の職務)

第6条 会長は、会務を総括し、コンソーシアム及び代表者を代表する。

- 2 副会長は会長を補佐し、その職務を代理する。

(代表者会の運営)

第7条 代表者会は、会長が招集する。ただし、緊急を要する場合には、この限りでない。

- 2 議長は会長をもって充てる。

(規約の変更等)

第8条 この規約やコンソーシアムの運営に関し必要な事項は、代表者会を経て会長が定める。

別表1 (第4条関係)

団体名等

高知県教育委員会
高知県立室戸高等学校
室戸ジオパーク推進協議会 (ESD活動拠点センター)
室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会
室戸高校魅力化の会
室戸市SDGs推進本部

付則 この規約は、平成31年4月1日より施行する。

付則 この規約は、令和3年4月1日より施行する。

令和2年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	こうちけんりつむるとこうとうがっこう				②所在都道府県	高知県
2019～2021	①学校名	高知県立室戸高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	1学年定員80名だが、生徒数が激減して全生徒数は79名	
総合学科	27	33	19		79		
⑥研究開発構想名	目指せ！持続可能な社会の担い手を育む教育の実践						
⑦研究開発の概要	E S Dの視点で地域貢献につながる活動を体系化する。また、ジオパークを題材にした海外交流体験によるグローバルな視点を加えた、カリキュラム・マネジメントを行い、本校がこれまで取り組んできたキャリア教育によって培われてきたキャリアを形成する基礎的・汎用的能力をさらに向上させ、将来、地域を担う人材を育成する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本地域は少子高齢化が急速に進み、市としては現在全国で5番目に少ない人口となっている。過疎化が進む本市に元気を取り戻すには、地域の人材育成に向けた組織的・継続的な取組が必要であり、その仕組みづくりが急務である。そこで、本研究においては、ユネスコ世界ジオパークに関わる地域唯一の学校として、その資源を有効に活用し、世界のさまざまな地域と関わることで、グローバルな視点で物事を捉えることができる資質を持つ人材を育てたい。また、総合学科高等学校ならではの教育活動の特色を生かし、郷土理解の学習を通して、地域の文化、歴史、生活、産業などに深い見識を持ち、将来、地域産業に関わり、地域産業に参画する人材を育てる。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>高知県室戸市においては、少子高齢化が急速に進み、雇用の減少など、将来、室戸市を支える人材育成が喫緊の課題である。しかしながら、これらの課題を解決するために、室戸地域が、室戸ユネスコ世界ジオパークに認定されていることを生かし、国際的なネットワークを活用しながら、地域課題を市民と高校生が考えていくグローバル人材を育成する取組は十分ではなかった。</p> <p>本地域過疎化が進む本市に元気を取り戻すには、地域の人材育成に向けた組織的・継続的な取組が必要であり、その仕組みづくりが急務である。そこで、本研究においては、ユネスコ世界ジオパークに関わる地域唯一の学校として、その資源を有効に活用し、世界のさまざまな地域と関わることで、グローバルな視点で物事を捉えることができる人材を育てたい。</p> <p>今後、多くの生徒たちが、海外の世界ジオパークの地域・国々と関わることで、国際的な視点で物事を考える力を育むことに繋がる。また、地元地域や国内のユネスコ世界ジオパーク地域での様々な取組を知り、伝える活動を通して、郷土愛が生まれ、将来地域を支える人材が育つと考える。</p>					
		<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>本校では、総合学科の特色を生かし、多様な選択教科・科目を通じて、様々な知識や技能を養い、問題の解決や探究活動に主体的、協働的に取り組む態度を養っている。</p> <p>特に科目「産業社会と人間」の学習では、地域や産業界等と積極的に連携を図り、郷土理解を深める目的で、ジオパークに関連する学習を「室戸学」と名付け、年間6回程度外部講師を招き、基本的な知識と課題解決に取り組もうとする姿勢を身に付けさせる。そして2年次の「続・産業社会と人間」の授業に円滑に連結させ、地域の企業の経</p>					

<p>⑧-2 具体的 内容</p>	<p>済活動を知り、働くことの意義や社会人としての責務を理解することにつなげる。</p> <p>また、学校設定科目として開設している「ジオパーク学」の授業では、ジオパークの基礎知識を身に付けるだけではなく、各個人がジオパークの魅力や課題を発見し、地域の専門家の支援をうけながらジオパークに関する課題解決学習に取り組む。そして、その結果については、発表会を開催し、地域に広める。そして、3年次には「課題研究」において、生徒個人やグループで決めたテーマについて調査研究し、その成果を発表する。</p> <p>本校では全ての教育活動を地域貢献に繋げるという目標を設定する。生徒会活動など特別活動、学校行事や地域行事への参加、部活動、教科など、すべての教育活動が地域の活性化に連動し、地域を元気にする源となるよう取り組む。</p> <p>さらに、各日本国内の世界ジオパーク認定地域の学校間で交流を進めるだけでなく、海外交流の場も拡大させる。室戸地域と同じくマレーシア初の世界ジオパークの認定を受けているマレーシア・ランカウイジオパーク関係機関及び関係高校との交流を開始し、地域の魅力を伝えるとともに、地域の課題について考えていく。このために必要な英語力を高めるため、地域素材を生かした教材を作成し、国際交流指導員等地域の方々と協働した英語指導を行う。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>本校が行っているE S Dの取組は、「体験する」「気付く」「探究する」「発表する」という一連のプロセスに基づき、「室戸を知り、室戸のすばらしさを伝える」ことである。生徒たちは、室戸の様々な遺産を探し当て、まず、自分たちがしっかりと理解し、多くの人にその魅力を伝える学習環境を提供する。そして、本校のビジョンである「全ての教育活動を地域貢献につなげる」ことを目指したカリキュラム・マネジメントを行う。その際、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」について、コンソーシアム等で協議する。</p> <p>校内推進体制としては、従前から国際関係の取組を企画・運営してきた国際交流推進委員会をE S Dの視点で見直し、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員を加え再編成する。また、地域や関係機関との連携のため、室戸市教育委員会をはじめ、地域の企業、商工会、関係機関などの代表、約10名の外部委員による学校運営協議会を構成し、企画運営への助言を計画している。一方、地域人材を活用した校外推進体制としては、「室戸市まち・ひと・しごと創生推進事業」に基づき、学識経験者を含むコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等に向けた取組と海外交流による効果的な人材育成に向けた取組の検討を進めていく。その際、高知県教育委員会が組織する運営指導委員会の指導により検証していく。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>本校の海外との交流については、室戸市の姉妹都市であるオーストラリアのポートリンカーン市の高校生との交流を20年以上続けており、毎年ホームステイによる2週間程度の短期交換留学で、授業や部活動等で高校生同士の交流を行っている。</p> <p>本校は、こうした従前の海外との交流経験を生かし、グローバルな視点でジオパーク関連の様々な取組を開発し、今後さらに充実させる。</p>

「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の学習に関わる地域連携活動の案について

*これまでの学習の流れについて

1年次の「産業社会と人間」から2、3年次の「続・産業社会と人間」「課題研究」の授業では、3年間をとおしてさまざまな地域の方に協力していただいている。おもな学習内容は、

- 1年次…「室戸学」「室戸市企業訪問見学」
- 2年次…「職場体験」「室戸市企業訪問見学」
- 3年次…「課題研究」（研究テーマにより各所）

となっている。授業の目標として、“自己のあり方・生き方を考えながら体験学習やグループ活動をとおして、将来の職業生活に必要な学ぶ意欲、コミュニケーション力、社会に参画する姿勢を身につける”ことを挙げている。「室戸学」や職場体験の体験先、課題研究のテーマ設定などで室戸地域と関わり、3年間で“室戸を知る”、“室戸を体験する”、“室戸について考える”という流れを作っている。生徒たちの足元にある地域の課題を知り、解決に取り組むことを起点にグローバルな視点を育てることを目指している。

*生徒の現状と改善したい点

- ①室戸地域やジオパークについて学習したことを模造紙などにまとめて振り返ることができているが、まとめたところで終わっている。発見した課題に対する生徒の実践まで到達していない。
- ②生徒の認識が“室戸地域やジオパークのことを学校の授業でだけやっている”というところで止まっている感がある。自分たちの住む地域への関心を深め、日常生活とつながっていることを実感させたい。
- ③地域の企業や産業についての知識が少ない。地域の課題についての知識が少なく浅い、現場の声を聞く機会もあまりない。授業内での学習では少ないので3日間の職場体験、企業訪問見学以外の機会を作れないか。

*改善点をふまえた今後の活動案

(1) ①、②から考える活動案→学習を地域全体で共有する場を作る、地域の方と交流できる場を作る

【具体例】・小学校、中学校と連携して、地域について学習したことを持ち寄って共有する

- ・SDGsや室戸世界ジオパークの講演・ワークショップに地域住民と一緒に参加し、自分たちができることを探して一緒に実践する。
- ・地域住民、小・中・高校生を交えた運動会やレクリエーション大会を開く。

【期待する生徒の成長】…学習したことを他者と共有、実践することで理解を深め、行動力が向上する。

行動を経験にして、次の課題発見、行動につなげることができるようになる。

地域の大人や子供と交流することで情報交換ができ、コミュニケーション力が向上する。さまざまな年代との交流から地域についての発見が生まれる。

(2) ③から考える活動案→地域の課題を調べる機会を作る

【具体例】・グループで地域企業を訪問し、課題を見つける。(見つけた課題に対してできることを実践する)

- ・室戸市役所の方に協力してもらい、地域にあるさまざまな課題を知る。解決策を相談しながら探し、できることを考えて実践する。(商店街の活用方法・イベント企画などの町づくりや地域企業との商品開発など)

【期待する生徒の成長】…漠然とした課題への認識について、根拠を掴み理解する。また理解したことから自身の考えを持ち、解決策を考えることで問題意識、情報収集力が向上する。

情報を収集する過程でグローバルな視点を身に付け、課題に取り組む。

教科と事業を関連させたカリキュラム（国語科）

- 1 行事 未定
- 2 目的 海外に伝わる昔話・民話について学び、その特徴や内容のもたらす働きについて考える。
- 3 期間 二学期ごろを想定(海外交流事業が落ち着いたころ)
- 4 内容 室戸高校と交流のある国に伝わる昔話、民話を読み、日本の昔話や民話と比較する。
- 5 生徒 2－2文系生徒

6 カリキュラム 教科名【 国語 】科 科目名【 国語表現(文系) 】

日時	学習内容	備考欄（必要経費等）
1 時限目	日本の昔話・民話を読み、その特徴や働きについて考え、まとめる。	
2 時限目	海外の昔話・民話を読み、その特徴や働きについて考え、まとめる。	海外の昔話・民話などをまとめた本があればよいか。
3 時限目	日本と海外の昔話・民話の特徴や働きを比較し、共通点、相違点をまとめる。	扱う国、題材となる話の数や種類によってグループ活動、個人活動を分ける。
4・5 時限目	前時までに学習した内容を、発表できるようにまとめる。	まとめるもの(パワーポイント、模造紙等)については検討中。(調べた内容については出典などを明記し、保存させる。)
6 時間目	グループごとに発表し、意見交流を行う。	

教科と事業を関連させたカリキュラム（英語科）

- 1 行事 未定
- 2 目的 室戸高校が行っている様々な活動と、室戸市の魅力を国内外に知ってもらう。
- 1年：知る・気付く 2年：知る(体験を通して)・気付く・表現する 3年：探究する・表現する
- 3 期間 通年
- 4 内容 国内外への幅広い情報公開を目的とし、日本語と英語両方で発信する。
SNSを通して、現在つながりができているオーストラリアのポートリンカーン市の高校やランカウイジオパークの関係者とも連携し、協働的な活動をする。(本年度の例：ランカウイジオパーク作成の動画に日本語字幕をつけて投稿、ランカウイジオ関係者に共有)
- 5 生徒 英語科の授業全般（載っていない科目は進学のための授業だが、状況に応じて同様な活動を行う）

6 カリキュラム 教科名【 英語 】科 科目名【 コミュニケーション英語Ⅰ（1年） 】知る

日時	学習内容	備考欄（必要経費等）
年間を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な英語運用能力を身につけるための学習。 （普段の授業・補習・英検） ・「産業社会と人間」で学んだ内容を元に室戸市の紹介ポスターを作ったり、英語で発信したりする活動。 ・言語活動において、ICTの効果的な活用法について学ぶ。 （翻訳ソフト、Googleの機能の上手な活用） 	

科目名【 英語一般 a（2年） 】 気付く、表現する

日時	学習内容	備考欄（必要経費等）
1 学期	・ポートリンカーン市の高校生などに向けて、室戸市の紹介を含む手紙を書く。	国際郵便送料
2 学期	・室戸高校 Facebook やトリップアドバイザー等のサイトにおいて、室戸市に関する調べ学習の成果や情報について、日本語と英語で発信する。	
3 学期		

科目名【 英語一般 b（3年） 】 探究する、表現する

※令和2年度に行った活動を引き続き行いたい。素材が未定なので、令和2年度の内容を以下に示す。

日時	学習内容	備考欄（必要経費等）
1 学期	①効果的なプレゼンスライドの作り方について学ぶ ②これまでに他教科や課題研究で作成された作品を日英字幕で紹介する ・パワーポイントは英訳 ・それ以外は情報をパワーポイントに落とし込んで英訳 ※いずれも動画に変換してから SNS で公開	
2 学期	①動画編集ソフトの使い方について学ぶ ②既存の動画に日 or 英字幕を付けて公開する ・ランカウイジオパークやポートリンカーン高校で作成された動画 ・室戸高校で作成された動画	
3 学期	1、2 学期で習得した技術を活用し、他教科や課題研究、その他学校活動において作成された作品を元に動画を作成し、公開する	

教科と事業を関連させたカリキュラム（福祉科）

- 1 行事 新たなジオコースを設立！ ～ガイドヘルプを通して、五感で感じる室戸の魅力～
- 2 目的 世界に誇る室戸世界ユネスコジオパークの魅力を、障がいの有無等に関わらず、全ての人に体感してもらうための方法を考える。
- 3 期間 令和3年10月～令和3年12月
- 4 内容 車いすを利用している人や視覚や聴覚に障害のある人が、安全に安心してジオパーク散策できるための介助方法を考え、演習を通じた技術の習得を目指す。また福祉施設を利用している入所者の方に対して、ジオパークの魅力を施設内で体験してもらうためのプログラムを考える。
- 5 生徒 生活福祉系列3年次生
- 6 カリキュラム 教科名【 福祉 】科 科目名【 生活支援技術2 】

日時	学習内容	備考欄（必要経費等）
令和3年10月	第4章 移動の介護（1）移動の意義と目的【講義】	
令和3年10月	第4章 移動の介護（2）移動・移乗における介護技術①【講義・演習・実技】	車いす介助の方法や視覚障害者の方の歩行介助（ガイドヘルプ）の方法について学ぶ。
令和3年11月	第4章 移動の介護（2）移動・移乗における介護技術②【講義・演習・実技】	
令和3年11月	第4章 移動の介護（2）移動・移乗における介護技術③【演習・実技】 室戸ジオパーク（現地）へ移動し、車いすで移動できるモデルコースを考える。	生徒と車いすを現地へ運ぶためにジャンボタクシーが必要。
令和3年11月	第4章 移動の介護（2）移動・移乗における介護技術③【演習・実技】 室戸ジオパーク（現地）へ移動し、視覚障害者（アイマスク着用）の方をガイドヘルプするモデルコースを考える。	生徒を現地へ運ぶための送迎が必要。
観光ジオパーク推進課と連携し、ツアープログラムの「モデルコース#07 ユニバーサルジオコース（仮）※1」を新設し、申し込みがあれば室戸高校生がボランティアスタッフとして参加。 ※1…視覚障害者や聴覚障害者など、障害の有無に関係なくジオパークの魅力を体感できるコース		
令和3年12月	ふりかえり	

令和2年度教育課程編成表

(各学科に共通する各教科・科目)

(室戸) 高等学校 () 分校全日制

教科	科目	標準 単位数	総合学科			1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
			1年次	2～3年次	計								
国語	国語総合	4	4		8～14								
	国語表現	3		2									
	現代文A	2											
	現代文B	4		4									
	古典A	2		2									
	古典B	4		4									
地理歴史	世界史A	2		2◇	4～6								
	世界史B	4		4◇									
	日本史A	2		2◇									
	日本史B	4		4◇									
	地理A	2		2◇									
	地理B	4		4◇									
公民	現代社会	2	2		2～6								
	倫理	2		2									
	政治・経済	2		2									
数学	数学Ⅰ	3	3		5～17								
	数学Ⅱ	4		4or5									
	数学Ⅲ	5		6									
	数学A	2	2										
	数学B	2		2									
	数学活用	2											
理科	科学と人間生活	2		2△	4～14								
	物理基礎	2		2△									
	物理	4		4									
	化学基礎	2	2▲	2△									
	化学	4		4									
	生物基礎	2	2▲	2△									
	生物	4		4									
	地学基礎	2	2▲	2△									
	地学	4		4									
理科課題研究	1												
保健体育	体育	7～8	3	4	9								
	保健	2	1	1									
芸術	音楽Ⅰ	2	2▽	2	2～10								
	音楽Ⅱ	2		2									
	音楽Ⅲ	2		2									
	美術Ⅰ	2	2▽	2									
	美術Ⅱ	2		2									
	美術Ⅲ	2		2									
	工芸Ⅰ	2		2									
	工芸Ⅱ	2		2									
	工芸Ⅲ	2											
	書道Ⅰ	2	2▽	2									
外国語	コミュニケーション英語基礎	2			5～20								
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	5										
コミュニケーション英語Ⅱ	4		4or5										
コミュニケーション英語Ⅲ	4		4										
英語表現Ⅰ	2		2										
英語表現Ⅱ	4		4										
英語会話	2												
家庭	家庭基礎	2	2										
	家庭総合	4											
	生活デザイン	4			2								
情報	社会と情報	2	2										
	情報の科学	2			2								
統・産業社会と人間課題研究	3～6		1										
小計			28	18～58	46～86								

※ 選択科目で○、]等の記号を使用した場合は、ただし書きをつけてください。

令和2年度教育課程編成表

(各学科に共通する各教科・科目)

(室戸) 高等学校 () 分校全日制

教科	科目	標準 単位数	総合学科			1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	
			1年次	2～3年次	計									
国語	国語総合	4	4		8～14									
	国語表現	3		2										
	現代文A	2		2										
	現代文B	4		4										
	古典A	2		2										
	古典B	4		4										
地理歴史	世界史A	2		2◇	4～6									
	世界史B	4		4◇										
	日本史A	2		2◇										
	日本史B	4		4◇										
	地理A	2		2◇										
地理B	4		4◇											
公民	現代社会	2	2		2～6									
	倫理	2		2										
	政治・経済	2		2										
数学	数学Ⅰ	3	3		5～17									
	数学Ⅱ	4		4or5										
	数学Ⅲ	5		6										
	数学A	2	2											
	数学B	2		2										
	数学活用	2												
理科	科学と人間生活	2		2△	4～14									
	物理基礎	2		2△										
	物理	4		4										
	化学基礎	2	2▲	2△										
	化学	4		4										
	生物基礎	2	2▲	2△										
	生物	4		4										
	地学基礎	2	2▲	2△										
	地学	4		4										
理科課題研究	1													
保健体育	体育	7～8	3	4	9									
	保健	2	1	1										
芸術	音楽Ⅰ	2	2▽	2	2～10									
	音楽Ⅱ	2		2										
	音楽Ⅲ	2		2										
	美術Ⅰ	2	2▽	2										
	美術Ⅱ	2		2										
	美術Ⅲ	2		2										
	工芸Ⅰ	2		2										
	工芸Ⅱ	2		2										
	工芸Ⅲ	2												
	書道Ⅰ	2	2▽	2										
書道Ⅱ	2		2											
書道Ⅲ	2		2											
外国語	コミュニケーション英語基礎	2			5～20									
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	5											
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4or5										
	コミュニケーション英語Ⅲ	4		4										
	英語表現Ⅰ	2		2										
	英語表現Ⅱ	4		4										
	英語会話	2												
家庭	家庭基礎	2	2		2									
	家庭総合	4												
	生活デザイン	4												
情報	社会と情報	2	2		2									
	情報の科学	2												
統・産業社会と人間課題研究	3～6		1	3										
			2											
小計			28	18～58	46～86									

※ 選択科目で○、]等の記号を使用した場合は、ただし書きをつけてください。

令和2年度教育課程編成表

(各学科に共通する各教科・科目)

(室戸) 高等学校 () 分校全日制

教科	科目	標準 単位数	総合学科			1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	
			1年次	2～3年次	計									
国語	国語総合	4	4		8～14									
	国語表現	3		2										
	現代文A	2		2										
	現代文B	4		4										
	古典A	2		2										
	古典B	4		4										
地理歴史	世界史A	2		2◇	4～6									
	世界史B	4		4◇										
	日本史A	2		2◇										
	日本史B	4		4◇										
	地理A	2		2◇										
地理B	4		4◇											
公民	現代社会	2	2		2～6									
	倫理	2		2										
	政治・経済	2		2										
数学	数学Ⅰ	3	3		5～17									
	数学Ⅱ	4		4or5										
	数学Ⅲ	5		6										
	数学A	2	2											
	数学B	2		2										
	数学活用	2												
理科	科学と人間生活	2		2△	4～14									
	物理基礎	2		2△										
	物理	4		4										
	化学基礎	2	2▲	2△										
	化学	4		4										
	生物基礎	2	2▲	2△										
	生物	4		4										
	地学基礎	2	2▲	2△										
	地学	4		4										
理科課題研究	1													
保健体育	体育	7～8	3	4	9									
	保健	2	1	1										
芸術	音楽Ⅰ	2	2▽	2	2～10									
	音楽Ⅱ	2		2										
	音楽Ⅲ	2		2										
	美術Ⅰ	2	2▽	2										
	美術Ⅱ	2		2										
	美術Ⅲ	2		2										
	工芸Ⅰ	2		2										
	工芸Ⅱ	2		2										
	工芸Ⅲ	2												
	書道Ⅰ	2	2▽	2										
書道Ⅱ	2		2											
書道Ⅲ	2		2											
外国語	コミュニケーション英語基礎	2			5～20									
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	5											
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4or5										
	コミュニケーション英語Ⅲ	4		4										
	英語表現Ⅰ	2		2										
	英語表現Ⅱ	4		4										
	英語会話	2												
家庭	家庭基礎	2	2		2									
	家庭総合	4												
	生活デザイン	4												
情報	社会と情報	2	2		2									
	情報の科学	2												
続・産業社会と人間課題研究	3～6		1		3									
			2											
小計			28	18～58	46～86									

※ 選択科目で○、]等の記号を使用した場合は、ただし書きをつけてください。

令和2年度指定

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）

研究開発実施報告書 第2年次

令和3年3月19日

発行 高知県立室戸高等学校

〒781-7102

高知県室戸市室津221番地

TEL：0887-22-1155（代表）

FAX：0887-22-3891

URL：<http://www.kochinet.ed.jp/muroto-h>

E-Mail：muroto-h@kochinet.ed.jp